

## 資料1

# 地区・郡市中教研 研究活動の概要

### ○上越地区

- ・上越
- ・柏崎
- ・刈羽
- ・糸魚川
- ・妙高

### ○中越地区

- ・長岡・三島
- ・三条
- ・小千谷
- ・加茂・南蒲
- ・十日町・中魚
- ・見附
- ・魚沼
- ・南魚沼・南魚
- ・燕・西蒲

### ○新潟地区

- ・新潟

### ○下越地区

- ・新発田
- ・村上・岩船
- ・五泉・東蒲
- ・阿賀野・胎内・北蒲
- ・佐渡

1 地区中教研の活動

(1) 第1回上越地区都市会長会 4月下旬 ※ 書面審議にて実施

- ①上越地区中教研組織（正副会長、事務局等）の確認
- ②令和4年度事業計画、指定研究運営等についての検討

(2) 上越地区運営推進委員会 兼 第2回上越地区都市会長会 12月8日（木）会場：高陽荘

<参加校>・令和3年度～4年度指定の会場校5校

国語（柏崎二中）、数学（妙高中）、技術・家庭（鏡が沖中）、特別活動（牧中）、道徳（板倉中）

・令和4年度～5年度指定の会場校4校

社会（清里中）、理科（柏崎一中）、保健体育（柿崎中）、

英語（八千浦中）

①指定2年次研究の実施報告と1年次研究の経過報告

②ファシリテーション「深い学びを実現するための実践における成果と課題について」（1・2年次混合で実施）

※ 並行して、都市会長会では各都市の事業について  
の中間報告と諸問題に係る情報交換

③シェアリングと各都市会長からの指導・助言



【上越地区運営推進委員会の様子(12/8)】

2 県中教研指定研究等事業による研究会…全て参集・対面方式（技家のみ Zoom 参加者もあり）

教科領域	研究主題	開催期日	会場校（参加人数）
国語	根拠を示しながら作品に対する新たな見方・考え方をもち生徒の育成	11月30日（水）	柏崎二中（26名）
数学	生徒が主体的に学び合う課題設定と授業展開の工夫	11月17日（木）	妙高中（39名）
技術・家庭	持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する生徒の育成	11月18日（金）	鏡が沖中（53名）
特別活動	個々の生徒の自己実現に向けた実践活動	10月21日（金）	牧中（40名）
道徳	「自分の考えをもち、進んで考えを伝え合い、深い学び得る生徒」の育成	11月29日（火）	板倉中（68名）

なお、12月8日の上越地区都市会長会出席者4名のうち、2名が上記研究会の会場校長であった。お二人から述べていただいた研究会終了後の所感を以下に紹介する。

- 研究会に向けて、指定教科（数学）担当教員2名の当事者意識は高かった。自校の校内研修のテーマとすることで、全校体制で取り組む雰囲気をつくったが、研究会に向けて教員相互で授業を見合い、研究主題を具現化する授業を練り上げようとする校内体制をつくることはできなかった。板倉中学校のように全校体制で研究会を運営する工夫が必要だった。
- 運営面では、当日直前まで予定どおりの開催でよいか熟慮した。事前に申込のあった参加人数やコロナ感染状況に応じて、空き教室のサテライト会場としての活用も含め、密にならない十分なソーシャル・ディスタンスの確保など、ハイブリッドな対応の必要性を感じた。（以上、妙高中から）
- 参集・対面のみならず、Zoomによるオンライン参加も受け入れたハイブリッドの研究会としたが、院生3名からは機器の不具合に対処できるよう参加いただき、ありがたかった。また、技術・家庭両分野の教員が一堂に会して協議できる研究会を開催できたのは有意義であった。（鏡が沖中から）

### 3 地区中教研の成果と課題、次年度の取組（方向性）

#### <成果>

- 上越市を含め、今回研究会を開催した5つの教科・領域すべてが、上越教育大学との連携を図り、教授陣からは指導者として、研究会当日のみならず、プレ授業を含む複数回の研究推進委員会に継続的に参加いただいた。専門分野の高い識見に基づく指導は、授業改善を進める上で大変有益であった。
- 柏崎市・刈羽郡においては、同地区学校研のみならず、教育センター研修ともタイアップし、小学校や県立高校・中等教育学校にも研究会案内を送付した。そのため、同市で開催した研究会当日は、異校種からの参加もあり、授業改善について校種を越えた情報交換や連携が図られた。
- 糸魚川市においては、市の学力向上プロジェクトを受けて研究を進めているが、上越教育大学の学校支援プロジェクトや上越教育事務所要請訪問（英語科）を活用し、教科単位で行う市内の教科研修を有益なものにしている。
- 妙高市においては、学び合う授業の視点だけでなく、市として重点を置いている「読解力」の6つの視点を意識した授業づくりに取り組み、各校校内研修や師範授業を通して、各教科における読解力のとらえ方が明確になりつつある。

#### <課題・次年度の取組（方向性）>

- △ 当たり前の用語となっている、例えば「主体的・対話的で深い学び」における下線部それぞれの具体的な中身や生徒の姿はどのようなものかについて、改めて教師間で明確にし、共有する必要がある。（埼玉県教委HPにあるリーフレット「主体的・対話的で深い学び 6則」は大変有益な資料である。）
- △ 将来的に部活動の地域移行が進み、中学校における部活動の比重が小さくなることが予想される中、学校の魅力として、1時間1時間の授業の中身が問われる。見方・考え方を引き出し、鍛えるような発問や課題設定の在り方について、各教科・領域で一層研究を深めていくことが課題である。
- △ 研究の軸足を教師でなく、生徒に置くことを忘れてはならない。研究を推進する中で、指導と評価のずれ（教師と生徒のずれ）をなくすようにしていかなければならない。
- △ 研究会の成果を開催校や当日の参加者のみならず、地区内に発信し、広げること、また、研究会後も地区内で同一教科内の研究を継続し、つなげることが大切である。



【4郡市会長会（左）と並行して行った研究会会場校教員によるファシリテーション（右）の様子】

#### <参考> ファシリテーションで提案された授業づくりの視点（教科を越えて取り組むべきこと）

- 話し合う必然性が生まれる（生徒にとって身近な内容である） 課題設定
- 活動に合わせた Jamboard（デジタル）かホワイトボード（アナログ）かの選択（以上、グループA）
- 授業者は「やりたい」と思える活動をどのようにコーディネートするのかをよく考えるべきである。  
⇒ ①あらかじめゴールを明確にする。 ②スタートをどうするか考える。
- 研究推進委員会の生かし方 ⇒ 中教研・研究推進委員が、自校の研推に入ると、より多くの学校が生徒の実態を反映させながら研究を進め、成果を還元することができる。（以上、グループB）

## 深い学びを通して、確かな学力を育む授業づくりの推進

上越市中学校教育研究会 会長 野池 康一

### 1 今年度の課題と取組

#### <今年度の課題>

上越市中学校においては、確かな学力の育成が喫緊の課題である。「見方・考え方」に着目しながら、深い学びに至る学び合う授業によって、生徒に確かな学力を育むことを課題とする。

#### <取 組>

- (1) 指定研究の推進に当たり、研究推進委員会を組織し、計画的に研究を推進する。
- (2) 5教科では研究推進委員会が設定した研究主題に基づき、市内各中学校の教諭が実践を積み重ねる。

### 2 研究活動の概要

#### (1) 指定研究の推進

○指定研究2年次・・・特別活動、道徳      ○指定研究1年次・・・社会、英語、保健体育

<2年次発表の概要>・・・①②とも、参集・対面形式で実施

#### ① 「特別活動」研究発表

会 場	上越市立牧中学校	開催日	令和4年10月21日(金)	参加人数	40名
指 導 者	上越教育大学大学院 教授 阿部 隆幸 様 上越市教育委員会 指導主事 小山 明 様				
研究主題	個々の生徒の自己実現に向けた主体的な実践活動				
授業公開	2年「10年後になりたい自分」		授業者 山本 明子 教諭		

#### ② 「道徳」研究発表

会 場	上越市立板倉中学校	開催日	令和4年11月29日(火)	参加人数	68名
指 導 者	上越教育大学大学院 教授 早川 裕隆 様 (上廣道徳アカデミー所長)				
研究主題	「自分の考えをもち、進んで考えを伝え合い、深い学びを得る生徒」の育成 ～発問構成の工夫と対話の充実で、「深い学び」を促す～				
授業公開	2年「わたしのせいじゃない～偏見や差別のない社会の実現」		授業者 鶴巻 華恵 教諭		



【特別活動（牧中学校）の授業公開から】



【道徳（板倉中学校）の授業公開から】



(2) 一斉研修の実施

11月15日(火)、3年ぶりに参集・対面形式で実施した。5教科の研修内容は以下のとおりである。

教科	研修内容
国語	○講演「物語・小説の授業で育てる読解力」 講師：上越教育大学学校教育実践研究センター 特任准教授 谷内 卓生 様
社会	○レポート持ち寄りの研究協議「深い学びの実現のために授業で大切にしていること」 ○講演「社会科における問いを考える」講師：上越教育大学教授 中平 一義 様
数学	○実践発表「城東中学校の取組：単元テストと評価について」同校 高橋 昌平 教諭 ○講演「上越市中学校生徒の数学学力向上に向けて」 講師：上越市教育委員会指導主事 渡辺 千一 様
理科	○天体の学習におけるプラネタリウム投影 ○「星のふるさと館」施設見学
英語	○授業研究：1年“Program 7 Research on Australia” (Sunshine English) 授業者：上越市立八千浦中学校 田中 健昭 教諭 指導者：県中教研外国語部長 小林 貴英 様 (三条市立下田中学校長) 上越教育事務所指導主事 桑原 正博 様



【数学科の講演の様子】



【英語科の研究協議の様子】

3 成果と課題、次年度の取組

<成果と課題>

- 指定研究を受けている学校のみでなく、上記市中教研（5教科）の中でも、上越教育大学との連携が図られ、高い識見を有する指導者から授業改善の在り方について、有益な助言が得られた。
- 指定2年次の板倉中学校（道徳）では、担当教員のみならず、全校体制（校内研修）で研究を推進し実践・取組を行った。また、運営面では、小規模の牧中学校が組織を挙げて準備に当たった。
- △コロナ禍から抜けきれない中、同一教科の担当教員が1人しかいない（特に若手のみの）学校では授業改善・学力向上に関わる研修の機会が十分とは言えない。中教研研究推進委員会も生かし、教科研修の充実を図っていく必要がある。

<次年度の取組（方向性）>

- ・上越市中学校長会では、生徒の学力実態に危機感をもち、現在定例会の中で、現状分析、実践紹介、各校で目指すことの確認を行っている。この動きを中教研での取組につなげていきたい。



【上越市中学校長会での学力向上研修】

## 学び合いを通して主体的に追究する生徒の育成

柏崎市刈羽郡中学校教育研究会 会長 庭山 敦  
同 副会長 山田 智

### 1 今年度の課題と取組

＜今年度の課題＞端末機器等を活かした学び合いを創造し、生徒が主体的に学ぶ授業づくりの充実。

＜取組＞各研究部で、生徒がもの見方や考え方を働かせ、対話的な学びを通してその多様さに気づき、主体的に追究する授業づくりの研修を充実させる。

### 2 研究活動の概要

#### (1) 教育文化講演会

- ア 会場・期日・参加者数 アルフォーレにて参集型講演会 8月22日(月) 約600名  
イ 講師 大阪市立大空小学校初代校長 木村 泰子 様  
ウ 演題 『「子どもを育てる」学校から「子どもが育つ学校」に  
～「ふつうの子」なんてどこにもいない～』  
エ 内容 実践に基づいた様々な個性ある子どもたちへの対応の仕方や教職員の教育  
に対する考え方などをご講演いただいた。どの教職員も経験し、抱いてきた課  
題に対して、別の視点からご教授いただき、今までの教育観を改めて見直す機  
会となった。

#### (2) 「技術・家庭」学習研究事業(2年次)

- ア 会場・期日・参加者数 柏崎市立鏡が沖中学校 11月18日(金) 67名  
イ 指導者 上越教育大学 教授 東原 貴志 様  
ウ 研究主題 「持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し想像する生徒の育成  
～よりよい生活の実現に向かう力の育成～」  
エ 授業公開 第2学年 技術分野「誰もが快適に暮らせるスマートホームを考えよう」  
授業者 教諭 前澤 侑  
第2学年 家庭分野「リフォームで家族が安心して住める住空間をゲットしよう」  
授業者 教諭 長谷川智美  
オ 研究協議 総合的な学習の時間での高齢者疑似体験から課題を明確にし、家庭分野では  
家族全員が安心して暮らせる住宅リフォームを、技術分野では快適に暮らすた  
めの計測・制御のプログラミングを授業を通して実践した。家庭分野と技術分  
野が関連し合うことで生徒の学びが深まり、持続可能な社会の実現に向けて、  
実践力を高める取組として提案することができた。

#### (3) 「国語」学習研究事業(2年次)

- ア 会場・期日・参加者数 柏崎市立第二中学校 11月30日(水) 29名  
イ 指導者 上越教育大学 教授 佐藤多佳子 様  
ウ 研究主題 「根拠を示しながら、作品に対する新たな見方・考え方をもち生徒の育成」  
エ 授業公開 第2学年 国語 「走れメロス」  
授業者 教諭 赤沼 祐子  
オ 研究協議 「問い立て」が深い学びの姿(作品に対する新たな見方・考え方をもち姿)を

達成するために有効であったかというテーマで協議を行った。「生徒の感想から生まれた『問い』を学習課題とすること」や「探究方法を自分で選択できること等の工夫」により、生徒の主体性を引き出せることがわかった。

(4) 「へき地・複式教育」学習研究発表会（2年次）

- ア 会場・期日・参加者数 柏崎市立鯖石小学校 11月16日（水） 85名  
柏崎市立中通小学校  
柏崎市立内郷小学校
- イ 指導者 中越教育事務所学校支援第2課 課長 黒田 茂男 様
- ウ 研究主題 「ふるさとに誇りと愛着をもち、自ら学び続ける子どもの育成」
- エ 研究実践 鯖石小学校5・6年【国語】  
中通小学校3・4年、5・6年【総合的な学習の時間】【国語】  
内郷小学校3・4年【総合的な学習の時間】
- オ 研究協議 「ふるさと」そのものを教育資源とし、地域素材の活用や地域の人との関わりを生かすことを学習の基盤とした。生活科や総合的な学習の時間を中心とし、教科を関連付け、横断的・総合的にリンクさせるとともに、複式学級としての利点を生かしながら実践することができた。

(5) 「理科」学習研究事業（1年次）

- ア 会場・期日・参加者数 柏崎市立第一中学校 11月25日（金） 21名
- イ 指導者 中越教育事務所学校支援第2課 指導主事 長谷川 成生 様
- ウ 研究主題 「活用を意図した単元構成により、学びをつなげ、表現できる生徒の育成」
- エ 授業公開 第3学年 理科 「地球と宇宙」  
授業者 教諭 近藤 悠司
- オ 研究協議 既習事項の知識・技能を活用し、太陽の黄道について考察させた。ICT を効果的に利用し、校舎と中庭を宇宙に見立てたダイナミックな実験を通して生徒の学びを深めることができた。今後は学びを深めるため、既習した知識をどのようにつなげていくか単元を通して精選するとともに、発問や実験方法の工夫が課題である。

(6) 柏崎市立教育センターとの合同研修講座

(7) 研究成果の刊行 「柏崎刈羽の学校教育」第18集

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

課題設定の工夫を意識することで、生徒の学ぶ意欲が継続され、主体的に追究していく姿に結びつくことを再認識できた。また、その意欲が仲間との良好な関わりを生み、多角的な思考を促し、深い学びへとつなげていくことができた。

<課題>

各校、各教科における生徒の意欲を引き出す課題設定の工夫と深い学びにつなげる授業づくりを、普段の授業から実践していくことの必要性。

<次年度の取組>

学力向上を課題とし、主体的・対話的で深い学びに向けた更なる授業改善の推進。

## 生徒が主体的に深く学び続けるための授業改善

糸魚川市中学校教育研究会 会長 渡辺 徳彦

### 1 今年度の課題と取組

#### <今年度の課題>

糸魚川市では子ども一貫教育方針のもと、「学力向上いといがわプラン」を推進している。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善として、各校が生徒の実態を踏まえながらも全市共通の指導のポイントを意識して指導に当たることが大切である。そして、授業者は各授業場面における「深い学び」を明確にして指導することが求められる。

#### <取組>

今年度の糸魚川市中学校教育研究会においては、県中教研指定研究はなく、糸魚川市の学力向上プロジェクト、学力向上専門監事業、上越教育事務所教科リーダー養成講座の中で深い学びを明確にする授業改善を研究してきた。

#### (1) 糸魚川市の学力向上プロジェクトによる研究

年3回の糸魚川市学力向上プロジェクト部会の中で、各校研究主任を中心に自校の実態を踏まえた授業改善を研究してきた。生徒が主体的に深く学ぶため、全市共通の授業改善のポイントは以下の5点である。この視点を各校、各教科の中で設定した授業改善を行った。

- ① 子どもが解決したい課題を明示している。
- ② 子どもが自力で課題に取り組む時間を確保している。
- ③ 子ども同士が主体的に関わる活動を設定している。
- ④ 学習内容のキーワードやポイントを明示している。
- ⑤ 振り返りの時間を設定している。



#### (2) 学力向上専門監事業による研究

糸魚川市では、数学の学力向上専門監が配置され、専門監督の指導による公開授業を実施した。糸魚川市中学校教育研究会の数学部の教員は学力向上専門監事業の中で「深い学び」について授業改善を研究した。

#### (3) 上越教育事務所教科リーダー養成講座による研究

糸魚川市中学校教育研究会の英語部員が、上越教育事務所の教科リーダー養成講座の指導者となっている。養成講座で上越地区の中学校英語教員を集めた研究授業を実施しており、その講座に糸魚川市中学校教育研究会が参加し「深い学び」の授業改善について研究を行った。

### 2 研究活動の概要

#### (1) 学力向上プロジェクト部会

第2回プロジェクト部会（令和4年10月13日 糸魚川市民会館で開催）では、各校の学力向上いといがわプランの進捗状況が報告された。

授業改善5つのポイントの活用事例として、①子どもの学習が深い学びにつながるように、ふさわしい課題を設定し、黒板に目標と課題を明示する。②主体的な学びにつながるように、自ら課題に取り組む時間をしっかりと確保する。③対話的な学びになるように、生徒同士が意見交換をしながら課題を解決できる時間を設定する。④まとめの時間を確保し、キーワードやポイントを確認する。⑤学習内容を



振り返り目標に対して分かったことを表現する場を設定する。という5点が挙げられた。

「主体的・対話的で深い学び」を校内で実現するため、ICT機器の活用が有効に働く課題設定（どの場面で、どのような課題設定が有効なのか）と手立て、支援方法を工夫することで授業の質を高めていく。教科を越えて授業公開や実践例を掲示板に公開して意見交流を行うことが報告された。

## （２） 学力向上専門監事業（数学）

学力向上専門監事業（令和4年12月9日 青海中学校で実施）では、中学校1年生数学「作図の利用」の授業を公開した。「欠けたピザを復元する」という課題を、既習の考えを生かして解決できるよう、生徒に任せる時間を十分に確保した授業を構想した。“生徒に任せる”と言っても、“放っておく”ということではなく、適宜必要なヒントを出しながら、生徒がやる気を持続できるように工夫されていた。生徒が主体的・



対話的に学び続けるために、「課題にのせるための工夫」「困っている生徒（グループ）へのヒントの出し方」など、多くの要素を取り入れていた。生徒からは最後になっても「まだ答えを聞きたくない」という声上がり、授業者の様々な手立てが非常に効果的だったことが分かった。

生徒に任せる時間が増えるほど、教師の役割は“教える”ではなく“コーディネートする”へと変わる。そういった教師の役割についても考えさせられる、学びの多い1時間となった。

## （３） 上越教育事務所教科リーダー養成講座（英語）

英語の教科リーダー養成講座（令和4年12月20日 青海中学校で実施）では、中学校1年生「即興で伝える力を養成するための指導」について公開授業を行った。生徒たちはオーストラリアについて読んだ題材を踏まえ、即興的に会話した。

初めに導入の自己紹介スピーチで意欲を喚起させ、本文を読ませた。オーストラリアの魅力が伝わるようオーストラリアに行ったらしたいことを考えるよう支援した。プランニングタイムを活動前に設定したり、活動後に書き起こしタイムを設定したりして、段階的に個に応じた表現力の向上を工夫した。生徒は、やり取りから有益な情報を読み取り、簡単な語句や文を用いて英語で伝えることができた。

## 3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

### ＜成果＞

今年度の糸魚川市中学校教育研究会においては、県中教研指定研究はなかったが、糸魚川市の学力向上プロジェクト、学力向上専門監事業、上越教育事務所教科リーダー養成講座の中で深い学びを明確にする授業改善を研究することで、各校の深い学びに対する意識は確実に高まった。

### ＜課題＞

「学力向上いといがわプラン」を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を各校や各教師により温度差なく浸透させる必要がある。ICT機器の有効活用なども含め、市中教研の明確な方針と各校の校長や研究主任などのリーダーシップの重要性を再認識した。

### ＜次年度の取組（方向性）＞

来年度も市中教研においては、県中教研指定研究はないが、今年度の取組を踏まえ、糸魚川市の学力向上プロジェクト、学力向上専門監事業、上越教育事務所教科リーダー養成講座の中で深い学びを明確にする授業改善の研究を継続し、各校の深い学びに対する意識を高める。

## 深い学びの創造と読解力の育成

妙高市中学校教育研究会 会長 宮川 高広

### 1 今年度の課題と取組

#### <今年度の課題>

新学習指導要領の完全実施を踏まえ、妙高市は令和2年度から「深い学び」の土台として「読解力の育成」を学校教育の重点に位置付けて研修を行い、教員の指導力向上に努めている。このことに加え、今年度は上越地区特別支援教育研究大会が妙高市で開催されることから、妙高市教育研究会として全面的に協力することになる。

また、妙高中学校が令和3年度からの2年間、県中教研の数学の研究指定を受けており、今年度は2年次の本発表を迎える。

#### <取組>

主体的、対話的で深い学びの創造に向けて、学び合う授業の視点だけでなく、「読解力」の6つの視点（①係り受け解析・②照応解決・③同義文判定・④イメージ同定・⑤具体例同定・⑥推論）を意識した授業を公開し、校内研修だけでなく妙高市教育研究会での研修を通して指導力を高めていく。また、上越地区特別支援教育研究大会を妙高市教育研究会の研修の一環として取り組むこととする。

一方、妙高中学校における数学の指定研究（2年次）の研究発表に向けて、妙高市教育研究会と共催する形で計画的に進めていく。さらに、新井中学校が令和5年度からの2年間、県中教研の道徳の研究指定を受けることから、人事異動を見据え研究推進員の選定をはじめとした組織づくりを行っていく。

### 2 研究活動の概要

#### (1) 妙高市教育研修会

##### 第1回（4月20日） 春の一斉研修

各教科における研究主題及び研修計画の立案

##### 第2回（8月5日） 夏の一斉研修：上越地区特別支援教育研究大会南部大会

大会主題：共生社会を実現するための切れ目のない一貫した指導・支援の在り方

##### ①分科会

##### ②パネルディスカッション

テーマ「共生社会を目指すインクルーシブな授業の実践」

※会員はオンラインで視聴・参加

##### 第3回（11月9日） 秋の一斉研修 部会ごとに開催（国語部会の実践例）

妙高市教育委員会小出信也指導主事による読解力の視点を意識した授業公開と協議会

会場：妙高中学校

#### (2) 中教研指定研究

##### ①数学（2年次）妙高中学校

##### 第1回研究推進委員会（6月23日）

・前年度の取組の課題を確認し、2年次の推進委員会の進め方を確認

##### 第2回研究推進委員会（7月30日）

・公開単元「一次関数の利用」における深い学びにつなげる課題についての協議

第3回研究推進委員会（8月23日）

- ・公開単元「一次関数の利用」における課題の練り上げ

第4回研究推進委員会（9月22日）

- ・授業展開についての協議

第5回研究推進委員会（10月6日）

- ・指導案検討

第6回研究推進委員会（11月17日）

- ・2年次授業公開と研究協議会 参加者39人

第7回研究推進委員会（11月22日）

- ・研究の成果と課題についての協議

②道徳（令和5年度～6年度）新井中学校

3月 研究推進委員候補の選定（予定）

（3）その他

9月26日 妙高市読解力向上のための師範授業 授業参観及び質疑

講師：鏑木良夫 様（板橋区読み解く力推進委員） 授業 小学校5年生算数

### 3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

（1）妙高市教育研究会

各学校における校内研修及び読解力向上のための師範授業を通して、各教科における読解力の捉え方が明確になりつつある。また、上越地区特別支援教育研究大会での研修を通し、インクルーシブ教育の視点から深い学びの授業イメージを高めることができた。

（2）中教研指定研究（数学）

研究指定（2年次）を受けていた妙高中学校では、コロナ禍ではあったが39人が参集し授業公開及び協議会を行った。参加者からは「研究主題に迫る課題及び授業展開の工夫がなされていた」「本授業の課題（問題）を自校で早速活かしたい」など、高い評価を得ることができた。

<課題>

（1）妙高市教育研究会

過去2年間、新型コロナウイルス感染対策の視点から他校教員が集う授業公開及び協議会の機会が失われ、徐々に参集型の授業公開が行われるようになってきたものの、授業を公開することをはじめ、授業公開・協議会に大勢が参加することに対する教員の抵抗感が高い。

（2）中教研指定研究（数学）

参集型での授業公開・協議会を行い、授業に取り組む生徒の姿から本時の課題や授業展開について参加者が学ぶことが多くあった一方、研究会の翌日に参加者が発熱（陽性）するなど、参集型の授業公開は感染症予防の手を緩めることはできないことを改めて痛感した。

<次年度の取組（方向性）>

妙高中学校では、指定研究（数学）の研究主題を自校の校内研修の主題として全職員で取り組んだ。次年度から始まる新井中学校における指定研究（道徳）においては、市内3校の共通の研究主題として取り組み、考え議論する道徳の授業の在り方を練り上げていきたい。

## 1 地区中教研の活動

(1) 第1回郡市長会会 4月21日(木) アトリウム長岡

- ①令和4年度中越地区中学校教育研究会 正副会長の選出について
- ②令和4年度研究指定について(会場校・開催期日・会の持ち方の確認)
- ③令和5年度以降の研究指定について(指定郡市・会場校の確認)
- ④情報交換(令和4年度郡市中教研活動について、地区運営推進委員会の持ち方等)

(2) 第2回郡市長会会 12月14日(水) アトリウム長岡

- ①令和3・4年度 指定研究の成果と課題について
- ②令和5年度以降の研究指定について
- ③情報交換(令和4年度の郡市中教研活動状況等)

(3) 令和4年度中越地区運営推進委員会 12月3日(金) アトリウム長岡

令和4年度指定の推進委員と令和5年度の推進委員・会場校責任者のグループで、郡市長がアドバイザーとなり、令和5年度の取組の方向を協議した。フレームワーク「KPT」を用い、現在の進捗状況や今後の課題を洗い出し、具体的に何に取り組むのかを明らかにしていった。

令和4年度指定の推進委員が経験を基に意見を述べたり、郡市長がアドバイスをしたりすることで、以下のように、内容の濃い協議を行うことができた。

【議題1】研究推進に関わって、次の点について知見や目指す方向性を明らかにする。

- ①各教科領域で見られた「深い学び」といえる「学び合い」の具体
    - ※「深い学び」に至らなかった「学び合い」の具体
  - ②「学び合い」を「深い学び」化させた要因
    - ※「深い学び」に至らせるために必要だったことは
  - ③「学び合い」をさらに「深い学び」としていくための方策
- それぞれの協議では、次のような知見が出された。(一部抜粋)

- ・当事者意識をもって学習課題に向き合うための手立てについて考えを深めること。
- ・意見交流・学び合いの場面設定についてさらに工夫をする必要がある。
- ・味方・考え方を働かせる場面を事前に明らかにしておくことさらに深い学びになることが期待できるだろう。
- ・技能をつなげ、統合していくことで新たな気づきが生まれる。そのための手立てを講じ、実践することができた。
- ・子どもが学びの主体としてあることを再確認し、個々の学びに目を向けることができた

【議題2】運営方法に関わって、次の3点を明らかにする。

- ①R5年度のおおよその見通し。
  - ②研究推進委員会の効果的なもち方、研究発表会当日の充実した協議会のもち方について。
  - ③研究2年目の運営に関わっての疑問、課題、今後の不安(予算執行、会場の準備、当日運営等)。
- それぞれの協議では、次のような知見が出された。(一部抜粋)

- ・大学公寿など、専門的な知見を持つ方から研究会よりも前に講演をしてもらうことで、当日あらためて実践の価値づけをしていただけた。
- ・駐車場の確保がむずかしかったが、周辺の公共機関に依頼して解決した。
- ・GoogleFormsで申込・感想(事後アンケート)を募ると、主催・参加者とも負担が少なくスムーズに運営できる。
- ・会場校と研究推進委員会の役割をあらかじめ明確にしておく。(例)申込窓口はどこ(誰)なのか、案内発送はどこ(誰)なのか等



## 2 県中教研指定研究等事業による研究会

教科・領域	郡市	学校名	期日	開催形式	参加者数(他郡市)	備考
国語	長岡・三島	川口中学校	11月15日(火)	参集	56(13)	3学年
数学	南魚沼	大和中学校	11月11日(金)	参集	69(16)	3学年
道徳	魚沼	広神中学校	11月16日(水)	参集	69(27)	3学年
美術	長岡・三島	東中学校	11月10日(木)	参集	34(13)	3学年
総合	三条	本成寺中学校	11月25日(金)	オンライン	112(40)	2学年

## 3 地区中教研の成果と課題、次年度の取組(方向性)

### <成果>

- ・感染禍による制約がある中で、各会場では様々な工夫を凝らして、研究授業や協議会を実施した。
- ・研究推進委員によるブース形式でのプレゼン、パネルディスカッションなど、各教科・領域で工夫をこらした発表が見られた。
- ・協議会では、対面による小グループでのファシリテーション、オンラインによるブレイクアウトルームの活用など、様々な工夫により活発な議論が行われた。
- ・公開授業では、生徒たちが教科領域の見方・考え方を働かせながら、真剣に課題に正対し、他者と考えを交流する姿が見られた。
- ・各教科の成果については次のとおり。

国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ずれ(対立や多様性)が生まれる学習課題の設定とその顕在化が生徒の追究意欲を高め、対話や読みの深まりにつながった。</li> <li>・生徒の対話や読みを深める教師のコーディネートの在り方を検討・提案し、その必要性を確認できた</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「深い学び」を実現するための手立てとして以下を確認した。</li> <li>①「学びの基礎力」をもとに、生徒が主体的に学ぶ授業法</li> <li>②押さえるべき知識・技能を明確にする(解決の見通し)</li> <li>③必要に応じた学び合い活動(対話的な学び)を設定する(協働的な学び)の提案</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内で共通した題材を、役割演技を用いる方法と、用いない方法で実践し生徒の考えが、評価項目に近づけているのかを検討することができた。</li> <li>・役割演技を用いた師範授業を参観し研修することができた。</li> </ul>
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な題材でICTを活用した授業公開を全3回実施し、実践が生かされ、多くのヒントを見つけることで改善していった。</li> <li>・研究推進委員も第2部でICTの活用場面を紹介したため、発表に向けて、発表者だけでなく全員で切磋琢磨し研究することができた。</li> </ul>
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中9か年の学習過程を編成することで、見通しをもった防災教育の推進につながった。</li> <li>・発表場面や意見交流の場面において、自分の考えを改めて問い直す姿や、新たな課題へとつなげ探究のサイクルを繰り返す姿が見られた。</li> </ul>

### <課題>

- ・研究内容や成果を広く発信する方策を考え、実践していく必要がある。
- ・資質・能力を確実に育むために、「深い学びにいたる授業」において、各教科・領域のどのような「見方・考え方」を設定し、いかに働かせるのかという視点から授業提案をする必要がある。
- ・研究推進委員会で、活発な議論は今後も進めていくが、指導案・資料等を精選化することで、授業者の負担を削減し、持続可能な指定研究事業にする。
- ・質の高い授業にすることに会場校や研究推進委員の力を注ぐ。駐車場整理や会場誘導など、なくても支障がないと思われることは精選していく。

### <次年度の取組(方向性)>

- ・上記の課題に正対し、「深い学びにいたる学び合う」授業や協議会の実現を目指していく。

## 「深い学びにいたる授業～学び合う授業を通して～」の実現に向けて

長岡市・三島郡中学校教育研究会 会長 神林 俊之

### 1 今年度の課題と取組

#### <今年度の課題>

- 資質・能力を確実に育むために、教科領域の見方・考え方を働かせる授業の創造を目指した研修を推進する。
- 「深い学びにいたる授業～学び合う授業を通して～」を目指した授業実践を推進する。

#### <取組>

- 各教科・領域で固有の見方・考え方に着目して研究主題を設定し、小学校と連携しながら授業研究会、講習・講演会等を実施する。

### 2 研究活動の概要

教科・領域	研究主題（主な活動内容）
国語	言葉の力を追究し、自分の読みをつくる授業 (講演会：2月 授業研究会：11月 川口中…県中教研指定2年次)
社会	自ら考え、意欲的に追究する子どもが育つ社会科授業の在り方 (授業研究会：11月 中之島中 オンライン動画公開)
数学	深い学びを実現する指導の工夫 ～タブレット端末等を用い、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通して～ (授業研究会：11月 宮内中)
理科	自然事象を科学的に捉え、探究する子どもの育成 ～理科の「見方・考え方」を働かせる授業づくり～ (実験体験会：8月 四郎丸小)
音楽	思いをもって表現する子ども (講演会：8月 授業研究会：12月 越路小 オンライン)
美術	思いを実現しようとする子どもの育成 (鑑賞研修会：11月 近代美術館 授業研究会：11月 東中学校…県中教研指定2年次)
保健体育	【体操・器械】 楽しさを味わうことのできる体づくり，器械運動の学習の工夫 【表現・ダンス】 楽しさを味わうことができる表現・ダンスの支援 【ボール】 子どもが楽しさを味わう教師の支援の在り方 【陸上】 いきいきと陸上運動に取り組むことを支援する手立て (実技研修会 陸上競技：8月 器械運動：10月 ボール運動：11月 表現・ダンス：11月)
技術・家庭	持続可能な社会の実現に向けて、生活を工夫し創造する児童・生徒の育成 (授業研究会：11月：大島中（技術） 11月：西中（家庭）)
英語	学び合う授業の創造 ～学ぶ意欲を高め、確かな学力を身に付ける生徒の育成を目指して～ (授業研究会：11月 黒条小・寺泊中)
道徳	「考え、議論する道徳」への授業改善 (授業研究会：10月 岡南中 11月 前川小)
特別活動	自主的、実践的に集団活動に取り組み、課題解決を通してよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育てる特別活動の工夫 (講演会：6月 研修会：11月)
進路指導 キャリア教育	自らの生き方を切り拓いていく生徒・児童の育成を目指して (研修会：8月 関原中 授業研究会：11月 関原中)

総 合	探究的な学習をうながす指導の工夫 (講演会：8月)
学校保健	現代的健康課題を抱える児童生徒への支援と養護教諭の役割 ～校種別グループ研修を通して学びを深め、児童生徒への効果的な支援につなげる～ (研修会：9月 10月 2月)

### 3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

#### <成果>

- コロナ禍でも各教科・領域ごとに様々な工夫（校務支援システムの活用、役割の明確化等）をして、活動を実施することができた。また、徐々に会場に参集して直接生徒の学びを見て、語り合うことのできる授業研究会・協議会が設定できるようになってきた。
- 小学校と中学校が合同で研修を行い授業スキルについて考えたり、資質・能力を育む授業の在り方について提案する研究授業が行われたりした。

#### <課題>

- 市内全中学校の研究推進に関わる教員を対象とした研修を行い、「深い学びにいたる授業」を実現するための校内研修の在り方について検討すること。
- 研究授業において、各教科領域における「見方・考え方」を働かせて学び合う授業の具体を提案し、その成果を各校の授業実践に生かせるようにしていくこと。
- 教師同士の「学び合い」が促進されるよう、研究授業の参観の視点を明確にすることや、協議会の持ち方の工夫を行うこと。
- 小中の連携（指導案作成、研究授業・協議会運営等）をさらに推進すること。

#### <次年度の取組（方向性）>

上記の課題を踏まえ、研究主任を対象とした研修会で「学び合う」教師集団や授業を実現するための取組を推進するとともに、教科・領域ごとに研究テーマを設定し、小中合同で授業改善に向けた研修を継続する。

## 小中一貫教育の推進～小中教職員が共に学ぶ～

三条市中学校教育研究協議会 会長 土田 栄林

### 1 今年度の課題と取組

#### <今年度の課題>

「三条市教研」として小中教職員が共に学ぶ場を立ち上げ5年目を迎える。三条市が推進する小中一貫教育を主体的にとらえ、9年間を見通した指導や小中連携等、新しい教育の動向を踏まえて積極的に共同研修を推進する。

#### <取組>

- ・小中一貫教育の洗練・深化に向けて、教職員一人一人が資質・指導力の向上に努め、三条市学校教育の目標を具現化する。
- ・学習指導要領の各教科・領域の目的を理解し、県中教研の「授業改善ナビゲーション」や「授業情報誌 Class・深い学びにいたる授業」を活用しつつ、授業の質的改善を積極的に進める。
- ・9年間を見通した各教科、特別活動及び総合的な学習の時間等の自校プランを相互に情報交換し合い、自校プランの改善充実に努める。

### 2 研究活動の概要

#### (1) 活動の概要

- ・4月14日(木) 第1回審議委員会(規約・組織・事業計画・予算計画等の審議)
- ・5月6日(金) 第1回一斉研修会(部会ごとに開催、年間活動計画・各分担等の決定)
- ・5月～11月 部会研修 (部会ごとに設定、市教育センターの研修講座等の活用)
- ・11月7日(月) 第2回一斉研修会(授業公開・協議会等)
- ・3月上旬 研究成果の刊行(三条市教研実践記録集)
- ・3月下旬 市教研準備委員会(次年度に向けた組織づくり、事業計画、予算計画)

#### (2) 各部会の研究主題・主な研修内容

国語	相手の話を聴き、自分の考えを深め表現できる児童生徒の育成 ～受信・思考・発信を大切にした聴き合い学び合い活動を通して～ ① 部会研修「漢学の里 諸橋轍次記念館～諸橋轍次の生涯～」 ② 一斉研修 授業公開「ごんぎつね」(栄中央小4年)
社会	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求し続ける生徒の育成 ① 部会研修「授業構想の検討・協議」 ② 一斉研修 県中教研指定1年次発表「ふるさと三条市から見る中部地方」(第一中2年)
算数・数学	算数・数学の指導のつながりについて ① 部会研修「主体的・対話的で深い学びの実現のための授業づくりの考え方と方法」 ② 一斉研修 授業公開 学園ごとに授業を公開し、授業参観及び授業協議を行った。
理科	見方・考え方を働かせ、主体的に問題解決に取り組む児童・生徒の育成 ① 部会研修 「Chromebook を活用した理科授業」 ② 一斉研修 授業公開「電流のはたらき」(嵐南小5年)
音楽	表現領域における指導法の工夫～主体的・対話的に学ぶ授業の実践～ ① 部会研修「歌唱指導～群青の合唱を通して～」 ② 一斉研修 授業公開「紙面による実践発表」



図工・美術	造形的な見方・考え方をもって表現に価値を見出す児童・生徒の育成 ① 部会研修「美術鑑賞研修」 ② 一斉研修 授業公開「図工：心のもよう」(大崎学園5年生)
家庭・技術家庭	新しい学力観が求める資質・能力を育む題材構想と授業のあり方 ① 部会研修 「家庭科から考える授業づくり」 ② 一斉研修 授業公開「こんだてを工夫して」(嵐南小6年)
体育・保健体育	主体的・対話的な深い学びを誘発する授業 ① 部会研修「新学習指導要領の評価について」 ② 一斉研修 授業公開「器械運動～マット運動～」(第三中1年)
外国語・英語	主体的に考え、かかわり、豊かに表現する子どもの育成 ① 部会研修「学園ごとの授業検討会」 ② 一斉研修 授業公開「学園ごとの公開授業」
道徳	「考え、議論する道徳」の実現に向けて ① 部会研修「ICTを活用した道徳授業の実際」 ② 一斉研修 授業公開「手品師」(正直、誠実)」(井栗小6年)
生活科・総合学習	生活科・総合的な学習の時間に活用できる地域施設や題材の情報共有と活用の方策 ① 部会研修「(株)スノーピーク施設見学」 ② 一斉研修 県中教研指定2年次発表「防災教育授業研修会(オンライン)」本成寺中
特別活動	望ましい人間関係につなぐ集会活動、生徒会活動、話し合い活動 ① 部会研修 授業公開「信頼される高学年を目指して！」(大崎学園6年) ② 一斉研修 ①の協議会
特別支援教育	① 部会研修『インクルーシブ教育システム構築に向けて』 ～一人一人の子どもの笑顔と活躍のために～ ② 一斉研修：テーマ別(障害種、授業等)実践レポート研修
学校保健	児童生徒の健康課題解決に向けた保健教育の取組」～一人一人の授業実践と情報交換から学ぶ～ ① 部会研修「GIGAスクール時代の養護教諭を考える」 ② 一斉研修 実践報告と協議「指導実践の視聴と情報交換」
学校事務	学園経営に参画するための学校事務職員の資質向上 ① 部会研修「年金・税金の基礎講座」 ② 一斉研修 講演会「学校と共同実施との関わりをステップアップ」

### 3 成果と課題、次年度の方向性

#### <成果と課題>

「三条市教研」として全15研究部会を設定し、小中教職員が積極的に関わり合いながらそれぞれ充実した研修会を創り上げてきた。三条市とともに教職に就く仲間として、市が推進する小中一貫教育の洗練・深化を目指し、児童生徒の「確かな学力」「豊かな心・個性」「健やかな身体」を一層伸ばしていきたい。中教研会員にとっても、小中9年間の学び・育ちを意識することができ、自校及び自身の今後の研究に大きくプラスになったと考える。

ただし、三条市教研発足4年目ではあるが課題もある。各部会の研究推進委員長の選出、所属部員の人数差、授業公開の輪番制、駐車場の問題など、市教研の組織・運営面で今後検討を進める必要がある。

#### <次年度の方向性>

- ・ 県中教研指定研究：社会（2次）と市教研のタイアップを十分に図っていく。
- ・ 今年度の組織面、運営面での反省を生かし、部会研修の在り方等について改善を図っていく。

## 「自ら考え 心豊かに たくましく生きる 小千谷の子ども」の育成

小千谷市中学校教育研究会 会 長 若林 靖人  
副会長 森山 義紀

### 1 今年度の課題と取組

当市中教研は、中学校5校88名の会員をもって組織し、小学校8校・総合支援学校1校の教職員と共に小千谷市教育研究会を構成し、互いに連携を図りながら研修活動を推進している。生徒の学力向上を課題と捉え、その実現のための授業改善を柱として研究活動を実践した。

### 2 研究活動の概要

#### (1) 市教育委員会との連携による研究推進・運営

- ①各研修委員会の代表を、小教研・中教研・市教委の三者で構成し、研究内容を企画・立案・運営している。
- ②実務研修として、保健・事務・栄養の各部会を、各学校の養護教諭・事務職員・学校栄養(教諭)職員及び市教委担当者をもって構成し、実務的な研修を推進している。
- ③市教育センター等と連携しながら教育活動支援事業を企画・立案・運営している。

#### (2) 夏季研修会の開催：令和4年8月18日(木)

- ①会場 小千谷市民会館，市内各学校（会場参加とTeamsによるハイブリット型による開催）
- ②内容 ア 会長挨拶  
イ 講演会 「個性」  
講師 公益財団法人日本オペラ振興会オペラ歌手育成部講師 品田 広希 様  
ウ 分科会（Teamsによるリモート開催）

#### (3) 部会研修の内容

- ①国語部会：協議「新学習指導要領に基づく評価の方法について」
- ②社会部会：協議「郷土に学びながら、一人一人が生き生きと活動し追求する社会科授業の創造」
- ③数学部会：授業研究「わかりたくなる授業の実現 ～実態に応じた指導～」
- ④理科部会：協議「ICTを活用した授業実践の検討」
- ⑤英語部会：協議「覚える英語から考えて使う英語へ ～ICTを活用して～」
- ⑥音楽部会：授業研究「生徒が主体的に取り組み，学びのある教材選択」
- ⑦美術部会：実技研修「作品鑑賞・実技研修を通して幅広い年代の作品に触れ，情報を共有し，実践力を高める」
- ⑧保健体育部会：協議「新学習指導要領に基づく，指導と評価の一体化について」
- ⑨特別支援教育部会：協議「生徒の生きる力の伸長を目指す特別支援教育」
- ⑩道徳部会：講師による講演「道徳科に求められる評価と生徒の学習記録の工夫による授業の充実」

### 3 成果と課題，次年度の取組(方向性)

成果としては，市の「おちやっ子教育プラン」が3年ぶりに改訂となり，市教育研究会及び市教育委員会と密接な連携を図りながら，目指す子どもの姿の実現に向けて研修を推進することができた。課題としては，部会研修を対面型で実施できていないため，テーマに沿った情報交換やより深まりある研修への工夫が必要である。次年度は，今年度，多くの部会で協議した授業改善の方向性を検討し，年間を通して継続的に課題に取り組む時間を確保していく。

## 「学び合う授業の創造」

加茂市南蒲原郡中学校教育研究会 会長 田中 裕之

〃

副会長 栗林 操

### 1 今年度の課題と取組

〈今年の課題〉

- 学び合う授業づくりを推進するため、市教研・町教研と連携
- ICTの効果的活用による、生徒の資質・能力の育成
- よい人間関係を構築する力の育成

〈取組〉

- 市教研や町教研との連携による研修活動（研修への積極的参加による授業改善）
- 中越教育事務所の重点教科訪問における英語科研修の支援

### 2 研究活動の概要

- 教科・領域の取組

〈加茂市〉

教科・領域	研究主題
国 語	国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現
社 会	加茂の文化の理解を深める
数 学	数学的に考える資質・能力を育成する授業の工夫～全国学調の分析を通して～
理 科	指導力・実践力向上につながる技能の習得
総 合	加茂の学習素材について見識を深めよう
音 楽	歌う意欲を高める歌唱指導の工夫
保健体育	健全な心身の発達を促すための健康教育の工夫
外 国 語	バックワードデザインによる見通しを持った授業づくり 中越教育事務所重点教科訪問 ～学習の見通しをもって主体的・対話的に学びを深める生徒の育成～
道 徳	道徳科の授業づくりと評価について
特別支援	子どもたちの将来を見据えた自立活動の実践
養護教諭	児童生徒が生涯にわたって健康な生活を送るために必要な力を育成するための養護教諭の役割 ～健康相談・健康教育の充実を目指して～
事務職員	学校事務職員として安定した事務機能を提供するための専門性の強化
栄養職員	食育の充実と指導力の向上

\* 研修会・講演会は、夏季休業中に集中開催（但し各教科・領域ごとに会場は分散）した。

\* 夏季休業中に指導者を招聘し、「授業づくり講演会」を開催した。

\* 市指定研究発表会を中学校区で実施した。（2年目 加茂中学校区）

〈田上町〉

教科・領域	研究主題
学力向上	思考力・判断力・表現力と学びに向かう力の育成
健康推進	心身の健康と保持増進する力の育成
ICT・プログラミング教育	ICT活用の推進 プログラミング教育プランの実践と検証
幼小連携	アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実践・検討・修正
小中連携	よい人間関係を構築する力の育成
UDL	「分かる」ことによる自己有用間の育成
事務	学校事務の効率化

\* 「田上の12か年教育（田上の子どもに育む5つの能力と4つの行動力）」に基づく取組を行う。

○中越教育事務所重点教科訪問（英語）

- ・授業校 7月 葵中 9月 若宮中 10月 七谷中 11月 加茂中 田上中 1月 須田中
- ・指導者 中越教育事務所 小磯 雅浩 指導主事
- ・研究主題 バックワードデザインによる見通しを持った授業づくり  
～学習の見通しをもって主体的・対話的に学びを深める生徒の育成～

### 3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

〈成果〉

- 新型コロナウイルスへの対応が緩和し始めたため、少しずつではあるが集まる機会が増えてきた。一方で、コロナ禍で確立したりモートによる研修も行った。研修方法が選択でき、教職員の状況に合わせて研修を進めることができた。
- 外部講師・指導者を招聘して講演会等を開催することで、ICTの活用などで、より専門的な技術の習得につながった。
- 教科部で公開授業・研究協議の回数を重ねることで、小中及び教科部の連携強化につながった。

〈課題〉

- 引き続き、研修を効率的に実施するための工夫を行い、負担感の少ない研修体制にする。
- 各教科・領域で進めた研修内容を、今まで以上に還元できるように検討する。
- 一教科一担任の小規模校は、自校で研修を進めることが困難である。近隣校などと相互研修が可能な体制を検討する。

〈次年度の取組（方向性）〉

- 上記課題を踏まえ、「学び合う」教師集団や授業を実現するための取組を推進する。また、教科・領域ごとに研究テーマを生徒の実情に合わせて見直し、授業改善をさらに推進する。



## 協働的な学びを活かした授業を通して

十日町市・中魚沼郡中学校教育研究会 会長 佐藤 栄策

〃

副会長 関谷 郷志

### 1 今年度の課題と取組

#### <今年度の課題>

中学校学習指導要領の完全実施に合わせ、深い学びにつながる教科の特性を活かした協働的な学習について追究する。

#### <取組>

- 県中教研指定音楽科（1年次）の発表に向けた取組
- 郡市教育振興会や市・町教育振興会や行政、中高連携事業との連携の促進
- 各事業を通じた、郡市内の小学校や高等学校、教育センター等との連携の在り方の模索

### 2 研究活動の概要

#### (1) 県中教研指定研究音楽科（1年次） 郡市教育振興会連携事業として

- 日時・会場等 11月4日（金）十日町市立十日町中学校 授業者：本保 美帆子 教諭
- 研究主題 「出会い かかわり ふかめる」  
～他者と協働しながら、思いをもって豊かに表現する姿を目指して～
- 単元・題材等 A表現 歌唱「思いや意図をもって、曲にふさわしい歌唱表現をしよう」
- 指導者 佐藤 孝子 様（魚沼市立広神中学校長）

#### (2) 授業力向上研修会

##### ① 郡市中教研指定研究

- 「理科」 11月28日（月）会場：十日町市立吉田中学校（授業者：八重沢 みづ穂教諭）  
※ 十日町市理科センターと共催
- 「道徳」 1月 会場：十日町市立川西中学校（授業者：山田 絵理奈教諭）
- 「社会」 2月 会場：十日町市立南中学校（授業者：多田 英明教諭）

##### ② 中高連携事業による研修会

- 「国語」 11月21日（金）会場：十日町市立水沢中学校
- 「保体」 11月8日（火）会場：十日町市立南中学校
- 「英語」 12月2日（金）会場：十日町市立松之山中学校
- 「数学」 10月27日（木）会場：県立十日町総合高等学校

### 3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

#### <成果>

GIGA スクールのタブレットを用いた授業研究に対する意欲が高まった。また十日町市理科センターとの協賛で研究会を継続しているがことで大きな成果を挙げている。

#### <課題>

校内一人教科の学校も多いため、校外での研修は有意義である反面、郡市教振等との重なりも多いため、整理が必要な部分もある。

#### <次年度の取組（方向性）>

令和4・5年度指定研究「音楽科」2年次に向け、郡市中学校長会等と連携した支援を行い、テーマに迫る研究を進めると共に、各校の授業力向上に向けて一層のフィードバックを行う。

## 確かな学力の向上を目指して

見附市中学校教育研究会 会長 深澤 正英

### 1 今年度の課題と取組

#### <今年度の課題>

- 各校で学習指導要領実施に向けて作成してきた指導資料の活用、改善を図り、授業力向上に向けて研究推進する。

#### <取組>

- 見附市教育委員会、見附市教育センター、見附市校長会と連携した各校授業実践研修
- 県中教研指定研究会への確実な参加と校内伝達研修  
「加茂南蒲、西蒲燕、三条、見附ブロック」「長岡・三島ブロック」「その他希望地区、市町村」

### 2 研究活動の概要

#### (1) 見附市教育委員会、見附市教育センター、見附市校長会と連携した取組

##### ① 見附市教育センター事業「4時から夢塾」に係わる研修

- ・ 5月31日(火) ・理科授業改善 県立教育センター指導主事 篠田 英
- ・ 6月9日(木) ・子どもの心の健康と新型コロナ感染症対策  
キャッツこどもクリニック院長 磯部 賢論
- ・ 6月22日(水) ・外国語、外国語活動授業改善 見附市教育センター指導者 小林 恵子
- ・ 7月5日(火) ・タブレット端末授業改善 附属長岡小教諭 相澤 将貴
- ・ 7月14日(木) ・不登校傾向の子への寄り添い方 心と学びの支援センター代表 吉沢 嘉一郎
- ・ 9月13日(火) ・子どもの成長と運動 新潟県立大学教授 伊藤 巨志
- ・ 10月11日(火) ・国語師範授業 附属長岡中教諭 伊藤 裕 会場：見附中
- ・ 10月18日(火) ・国語師範授業 附属長岡小教諭 小潟 雄一 会場：葛巻小
- ・ 10月21日(金) ・英語師範授業 附属長岡中教諭 佐藤 正秀 会場：西中
- ・ 11月30日(水) ・算数師範授業 附属長岡小教諭 瀬下 真心 会場：名木野小

##### ② 見附市教育センター事業「師がく」に係わる研修

- ・見附市が学力向上の目標に位置づけている「新教師の10ヵ条」の視点からの授業改善研修
- ・嘱託指導主事、外部指導者が、受講者の目標や課題に寄り添うマンツーマン研修を、一人年間2回実施

##### ③ 中学校重点教科(国語)研修 年間5回実施

##### ④ 研究成果の発行

- ・研究紀要「2022 見附の学校教育 62号」発行、配付

##### ⑤ 各種事業の運営

- ・見附市児童生徒夏休み作品展 9月24日(土)～25日(日)
- ・見附市児童生徒科学研究発表会 10月6日(木)
- ・見附市特別支援研修会 8月19日(金)
- ・見附市スクールアート展 12月3日(土)～5日(月)

### 3 成果と課題，次年度の取組（方向性）

#### <成果>

- ・市内小中特支全職員で構成していた「見附市学校教育研究協議会」（市教協）が、運営面や研修の実効性等の課題から、「働き方改革」と「研修の充実」の実現を目指して令和2年度に発展的解散をした。各校種ともに上位団体の組織活動への一本化を図り、中学校でも校務分掌上の重複等なく、希望する教科、領域に所属して中教研の研修に参加できるようになった。
- ・市教育センター主催の「4時から夢塾」で、外部指導者を招いた授業改善や今日的な課題に係わる研修を行ったり、「師がく」を校内研修として位置づけて指導者振り返りシートや参観者カードを回覧したりする等、各校で学びを深めることができた。
- ・初任者研修、2・3年目教員研修等と見附市が推進する各種研修と連動させて指導効果を高めるとともに、業務のスリム化と効率化を図り担当教員の負担軽減にもつなげることができた。

#### <課題と次年度の取組（方向性）>

- ・各校中教研会員が、自らの授業改善や自校研究への還元を視野に入れ、同一ブロック、隣接市町村を中心に、その他市町村、他地区の指定教科、領域研究会へ主体的に参加することとを促し、校内伝達研修を推進すること。
- ・令和5、6年度の指定研究（「道徳」会場校：見附中）時に、市内各校道徳主任が中心となって研究推進委員となり、状況に応じて各校部員が共に研究にかかわる等、授業力向上を図る体制を構築すること。

## 魚沼市中学校教育研究会 研究活動の概要

温かい学級づくりを基盤とした確かな学力向上と不登校の未然防止の取組

魚沼市中学校教育研究会 会長 高野 文忠  
同 副会長 小野塚 満

### 1 今年度の課題と取組

〈今年度の課題〉

- 確かな学力の育成、不登校の未然防止、「温かい学級づくり」の推進
- 〈取組〉情報活用能力の育成やICTを活用した授業実践を踏まえて
- 教科部会や各種教育部会における研修事業
  - 重点教科等の指定事業

### 2 研究活動の概要

#### (1) 重点教科等の活動

魚沼市教育振興会の活動と連動して、各教科部会と各種教育部会を実施している。毎年、各教科や各種教育から重点教科・領域を決め、活動の充実を図っている。今年度の重点教科・領域は、「社会」「理科」「体育・保健体育」「道徳」「特別支援教育」「食育」である。

① 社会 中越教育事務所の重点教科訪問を受け、「主体的・対話的で深い学びを具現化する社会科授業」を目指し、具体的な支援策を講じた授業提案を行いながら授業の改善、指導体制の改善に取り組んだ。

指導者 中越教育事務所 指導主事 丸山 俊 様  
魚沼市教育委員会 指導主事 佐藤 吉宏 様

- a 6月2日(木) 魚沼北中学校 授業者：教諭 五十嵐勇輔
- b 9月30日(金) 広神中学校 授業者：教諭 北村 優介
- c 10月31日(月) 堀之内中学校 授業者：教諭 池田 智美
- d 11月24日(木) 小出中学校 授業者：教諭 西巻 克哉
- e 12月9日(金) 湯之谷中学校 授業者：教諭 星 正泰

② 理科 「主体的・対話的で深い学び」を視点にした理科授業について公開を行い、会員の授業力向上を目指した。

- a 10月3日(月) 堀之内中学校 授業者：教諭 吉澤 瑞綺「大地の活動」
- b 10月4日(火) 小出中学校 授業者：教諭 竹内 裕太「遺伝の仕組み」
- c 10月12日(水) 魚沼北中学校 授業者：教諭 真柄 秋成「大地の活動」
- d 10月27日(木) 湯之谷中学校 授業者：教諭 櫻井 康平「分解者のはたらき」

③ 体育・保健体育 ICTをどのように活用できるかについて研修を深めると共に、各校での活用方法や取組について情報交換を行った。

- a 第1回保健体育部会(期日：8月19日(金) 会場：魚沼市北中学校)  
内容：保健体育授業におけるICTの活用について  
・講義及び情報交換

④ 道徳 研究テーマ「道徳授業における質の高い多様な指導方法の具現化を目指して」に沿った授業実践を重ねた。役割演技や自我関与に迫るための教師の問い返しなど、授業を展開する上での手法について実践し研修を深めた。

- a 第1回 道徳部会(期日：5月30日(月)、会場：広神中学校)  
内容：新潟県中学校教育研究会の事業計画の確認
- b 第2回 道徳部会(期日：7月1日(金)、会場：広神中学校)  
内容：指導案検討と各校からの実践報告
- c 第3回 道徳部会(期日：10月3日(月)、会場：広神中学校)  
内容：プレ授業と指導案検討、研究発表会の運営計画準備
- d 新潟県中学校教育研究発表会(期日：11月16日(水)、会場：広神公民館)  
指導者 上越教育大学上廣道徳教育アカデミー特任教授 小宮 健 様  
魚沼市教育センター 統括指導主事 新澤美和子 様  
授業者 広神中学校 教諭 橋本 哲明「二通の手紙」

⑤ 特別支援教育 地区交流会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から各地区ブロックごとの判断とし、中学校ブロックのみ自己紹介ポスターを交換する内容で開

催した。本年度の部会の研修は、オンラインによる研修会と体育館ギャラリーを利用しての授業公開を行った。

- a 研修会（期日：7月29日（金）、※Zoomによる研修）  
講義：「通常学級における教育的支援を必要とする子の理解と対応」  
講師：上越教育大学教職大学院 准教授 関原 真紀 様
- b 授業公開（期日：10月18日（火）、会場：小出特別支援学校）  
授業者：小出特別支援学校 教諭 中島 良太  
指導者：上越教育大学教職大学院 准教授 関原 真紀 様

⑥ 食育 食育授業や活動において動画や食育教材を使用することは有益と感じ、ICTの活用についての研修を行った。

- a 期日：7月29日（金） 会場：JA北魚沼百菜花ん他 諸施設訪問、意見交換
- b 期日：8月1日（月） 会場：湯之谷小学校 ICT研修

上記の重点教科・領域以外でも、部会や授業研究会を含めた年間最低2回以上を念頭にした研修会を実施している。その際、教科と各種教育の研修日を別とし、会員がそれぞれの部会に参加できるよう配慮している。

(2) 魚沼市教育委員会「新・温かい学級づくり支援事業」への主体的参加

今年度魚沼市教育委員会が推進するリニューアル事業「新・温かい学級づくり」の全員研修会等に主体的に参加した。

(3) プロポーザル事業の実施

本事業は2校以上の職員が共同して行う教科等の研修であること、目的が学力向上等につながる研修であることを対象にしている。

(4) 研究成果の刊行

「魚沼市の教育」（A4判 44ページ）を刊行し全小中学校に配付した。主な内容は、重点教科等、各教科・各種教育、各校、学習指導センター、理科センターの活動報告である。

### 3 成果と課題、次年度の取組

〈成果〉

- 中越教育事務所の重点教科訪問とリンクさせ、各教科の研修体制を整備してきた。今年度の社会科や既に効果的な取組を行ってきた教科と合わせて主体的な研修体制が構築できた。
- 今根戸からリニューアルした「新・温かい学級づくり」を意識した授業実践が行われた。この成果として、生徒同士が学び合う授業や教師同士の学び合いが進み、授業改善につながった。

〈課題〉

- 職員の人事異動が頻繁なため、積み上げてきた成果を継続、発展させることが難しい。
- 日常業務の多忙化、旅費の負担等で必要な回数 of 研修会を開催することが難しくなってきた。

〈次年度の取組〉

- GIGAスクールについて今後も端末を活用した授業改善を進めていく必要がある。ICT活用の有効性や課題を職員間、学校間で共有しながら、職員研修を充実させていく。
- 研修を効率的に実施するための工夫をして、負担感の少ない研修体制を検討する。

## 「未来を切り拓く心豊かでたくましい生徒の育成」

南魚沼郡市中学校教育研究会会長 井口 秀夫

同 副会長 渡辺 和人

### 1 今年度の課題と取組

#### <今年度の課題>

- ・学力の向上を図る学習指導の改善・充実
- ・学校課題の解決を目指す教育課程の編成
- ・主体的に学習に取り組む態度の育成と評価
- ・G I G Aスクールにおける各教科等の実践の推進

#### <取組>

- ・本郡市中学校教育研究会は、郡市小学校教育研究会との密接な連携を取り、郡市教育振興会として共同で研究活動を推進している。
- ・年度始めに教科・領域ごとに研究テーマを設定し、年間1～3回の部会及び授業研究会等を開催した。
- ・重点教科は国語及び算数・数学とし、各校で研究授業を行うとともに教科主任等が学力向上策等の情報交換を行った。
- ・県中教研指定研究2年次「数学」は会場校である大和中学校を中心に研究を進め、大和中以外の4校全てで公開授業を行った（学習指導センター主催）。11月11日（金）には、大和中にて公開授業と協議会を行い、協議会では生徒に「学びの基礎力」を身に付けられるための手立ての有効性などについて議論された。

### 2 研究活動の概要

(1) 総会 5月2日（月） 会場：部会ごとの分散開催

(2) 各部会 日程・会場：各部会により設定

(3) 各教科・領域の研修内容

教科等	研修内容
国語	○講演会「授業改善のための『授業デザイン』について」 ・講師：上越教育大学教育学部 教授 佐藤多佳子 様 ○授業研究
社会	○講演 「南魚沼市内の原始・古代の遺跡や遺物」 ・講師：新田 実穂 様（南魚沼市社会教育課） ※中止 ○授業研究（六日町中学校）
数学	○講演会 南魚沼市で目指す「主体的・対話的で深い学び」 ・講師：茶谷 明 様（R1、2学力向上専門監） ○授業研究
理科	○講演：プログラミング教育講演会・実習 ・講師：齋藤 博 様（新潟市ユーレカ工房代表） ○授業研究（六日町中学校） ※延期

音楽	○実技研修 プログラミングを活用した授業作り ・指導者：今成 満 様（小千谷市立和泉小学校長） ※中止
美術	○『自己肯定感』を高め、『学力向上』も促す対話型鑑賞 ※中止 ・指導者：青木 善治 様（滋賀大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻教授）
保健体育	○新学習指導要領全面実施における評価方法の情報交換と研修 ・指導者：田山 秀人 様（南魚沼市立塩沢中学校長）
技術	○ピュートレーサーを用いたプログラミングの実践的演習 ※中止
家庭	○あまぎ製造過程見学 ・講師：八海山あまぎ工場社員 様 ※中止
英語	○講演会 「児童生徒をエンパワーする外国語の授業づくりと評価」 ・講師：上越教育大学教授 大場 浩正 様
道徳	○講演 道徳の授業づくりについて ・講師：丸山 有希 様（新潟大学附属長岡小学校） ※中止 ○情報交換
特別活動	○情報交換・新型コロナウイルス対応を踏まえた3年目の特別活動の進め方について
生徒指導	○講座「特別支援教育 仕組みがわかれば支援ができる～発達凸凹の考え方講座」
進路指導	○各校におけるキャリア教育の現状について ※8月に情報交換を紙面にて実施
学校保健	○講演 「保健室で役立つ面談のポイントと3つのスキル～家族との協働支援の仕方」 ・講師 佐藤 真奈美 様 ○グループ研修
総合学習	○見学・講演「バイオマスレジ南魚沼」 ※中止

### 3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

#### <成果>

- ・指定研究2年次に当たる数学について、郡市全中学校における授業公開と研究推進委員会を開催し研究を進めてきた。その成果を、11月11日（金）の公開授業で発表し、協議会で深めることができた。
- ・各教科等において、公開授業や講演会等を通して研修を進め、自校での取組の見直しにつなげることができた。

#### <課題>

- ・「主体的に学習に取り組む態度」をどのように育み、評価を進めるのかについて、引き続き研修を進める必要がある。今後も情報交換や研修会を行い、明確で公正な評価を目指すとともに、指導と評価の一体化を進める必要がある。
- ・タブレット端末の活用が進む学校がある一方で、なかなか活用が進まない学校も見られる。教科間での活用頻度の差も大きい。引き続き研修や活用事例の蓄積と共有を進める必要がある。

#### <次年度の取組（方向性）>

- ・南魚沼市学習指導センターとの連携を継続し、各校における授業公開及び研究協議会において、教師の授業力向上と生徒の学力向上を目指す。
- ・各教科等部会において、タブレット端末の効果的な活用事例を蓄積し、教科横断的に共有して活用を促す。



# 燕市・西蒲原郡中教研研究会 研究活動の概要

## 21世紀に求められる資質・能力をはぐくむ教育の創造

～生徒の学びを深める授業の実践を通して～

燕市・西蒲原郡中学校教育研究会会長 河井 昌之  
同 副会長 森田 雅弘

### 1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

- ・教科等部会 … 新学習指導要領全面実施に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり。3観点評価とタブレット端末の活用をどう進めていくか。
- ・領域部会 … よりよい学校生活を築くための自校での役割と生徒への専門的な支援の在り方。

<取組>

- ・教科等部会 … 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう人間性等」の資質・能力をバランスよく育むために、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善と公開授業協議会の実施
- ・領域部会 … 自校の課題に適切に対処できる高い専門性を養う研修会の実施

### 2 研究活動の概要

(1) 評議員会 5月12日 (2) 総会・研究部会 5月18日 (3) 前期部長会 7月6日

(4) 一斉研修会 11月9日

(道徳科：10月26日、特別支援：11月30日、学校事務：8月5日)

(5) 後期部長会 11月24日

<各教科・領域の研究主題>

部会	会場	研究主題・内容
国語	分水中	主体的・対話的に学び、深い学びを実現し、読解力を育む生徒の育成
社会	弥彦中	学び合いを通し、主体的に学習に取り組む生徒の育成
数学	燕中	「主体的・対話的な学び」から「深い学び」を実践する生徒の育成
理科	吉田中	科学的な思考力・判断力・表現力を活用する授業の工夫～課題を設定し、探究する計画を立て、実行できる生徒の育成～
音楽	燕北中	対話を通して学びを深めるための手立ての工夫
美術	燕中	主体的・対話的な学びから、深い学びを実現する生徒の育成
保体	小池中	課題解決に向け、主体的に学び、関わり合いながら学びを深める生徒の育成
技家	吉田中	より豊かな生活を送るための知識・技術を学び合う学習をとおして、深い学びにつなげる授業づくり
英語	燕北中	他の生徒と関わることで、学びを深めることができる授業
道徳	弥彦中	自己を見つめ、多面的・多角的に人間の生き方を考える生徒の育成
特支	燕西小	(講演テーマ) 子どもの学びをつなぐ保護者との連携・協働
学保	小池中	健康課題・発達課題を抱える生徒への支援と養護教諭の役割～中学校時代にどのような力を身に付けさせれば良いのか～
事務	吉田北小	主体的・積極的に学校経営に参画する「専門職」としての学校事務職員像の追究

### 3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

- ・公開授業を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに有効な手だてを各部員で共有することができた。
- ・全参会者で、タブレットを効果的に活用するという授業改善の視点を共有できた。
- ・推進部会で指導案検討をオンラインで行うことで、効率よく進めることができた。

<課題>

- ・一斉研修会の時期的な問題で、行事等で準備が大変な教科がある。
- ・一斉研修会の日だけではなく、一年を通じて研究主題を意識することが必要である。
- ・授業者や会場校職員に負担感がある。

<次年度の取組（方向性）>

- ・今年度の研究主題を継続し、各校で授業改善に努めるとともに、手立ての有効性について検証し知見を得る。
- ・各教科・領域の課題解決を目指して研修に取り組み、より専門性を高める。

新潟地区・新潟市中学校教育研究協議会 研究活動の概要

「自分の力に自信をもち、心豊かな子どもを育てる中学校教育」

新潟地区・新潟市中学校教育研究協議会 会長 浅見 博幸

1 今年度の課題と取組

〈今年度の課題〉

「新潟市教育ビジョン第4期実施計画」の理念のもと「新潟市の学校教育」を実践の柱に事業を推進する。

〈取組〉

会員一人一人の研修意欲を高め、各学校の研究活動の充実を図るために共同研究を実施し、その成果や先進的な取組等の情報を共有・集積し、活用する。

2 研究活動の推進

- (1) 「新潟市教育ビジョン第4期実施計画」の理念のもと「新潟市の学校教育」を実践の柱に事業を推進する。
- (2) 新潟市教育委員会、新潟市中学校長会から指導・助言を受け、県中学校教育研究会（以下、県中教研）と連携して事業を推進する。

3 研究活動の概要

- (1) 第1回部長会 4月28日(木) 県中指定研の推進・運営・発表の確認及び意見交換、各組織の運営方針の確認
- (2) 第1回評議員会 5月19日(木) 運営方針・事業大綱・前年度決算等の承認
- (3) 各教科・領域幹事会 5月19日(木) 各教科・領域の組織編成と事業計画作成
- (4) 第2回部長会 1月12日(木) 今年度の成果と今後の課題検討
- (5) 第2回評議員会 2月2日(木) 事業報告・新年度の大綱案の審議
- (6) 研究成果の発行 「実践報告書」 (300部 各学校3部配布)
- (7) 各部の活動

① 一部（教科等）発表会（全員参加の研修会） 県中教研指定研究発表（2年次）：県中教研 令和4年11月10日(木)

部会	研究主題	会場	指導者
国語 県中教研	学び合いを通して、生徒が言葉による見方・考え方を使って考えを深め、自らの成長を実感する国語科指導	五十嵐中学校 及び オンライン開催	宮城教育大学 名誉教授 相澤 秀夫 様 新潟市教育委員会 学校支援課 指導主事 佐藤 恵美 様
社会	社会認識を高め、確かな学力を育てるためにはどうあるべきか	小針中学校 亀田西中学校	新潟市教育委員会 学校支援課 指導主事 村上 大樹 様 新潟市立東石山中学校 校長 佐藤 宏欣 様 新潟薬科大学 教授 木村 哲郎 様 新潟市立赤塚中学校 校長 白井 明美 様
数学 県中教研	数学的に考える資質・能力に向けた授業改善の工夫	東新潟中学校及び オンライン開催	新潟市立総合教育センター 指導主事 坪川 淳助 様
理科	学び合いを通して、科学的な思考力・表現力を高める理科指導の工夫	新津第二中学校 及びオンライン開催 松浜中学校 横越中学校	新潟市立総合教育センター 指導主事 山内 信二 様 新潟市教育委員会 学校支援課 指導主事 安藤 達郎 様 新潟市立大形中学校 校長 永井 一哉 様 新潟市立白根北中学校 校長 緒方 猛 様
音楽	感性を働かせて、仲間と共に音楽にかかわり続ける生徒の育成	早通中学校及び オンライン開催	新潟市西蒲区教育相談室 指導主事 鷹尾 昌子 様
美術	豊かな感性を養い、主体的に創造活動を楽しむ生徒の育成	東石山中学校 濁川中学校	新潟市立中野小屋中学校 校長 潤間 るみ 様 新潟市立巻西中学校 校長 鷺津 秀幸 様
保健 体育	運動に親しみ、自ら学ぶ生徒の育成～学び合いを通して、わかってできる授業の創造～	Zoomによるオンライン開催	新潟市立総合教育センター 指導主事 音田 和行 様 新潟市立巻東中学校 校長 高橋 敏明 様 新潟市立横越中学校 校長 齋藤 雅敏 様
技術 家庭 県中教研	生活を工夫し、創造しようとする生徒の育成 ～実践的・体験的な活動を通して学び合う授業～	新津第五中学校 山の下中学校	新潟市立総合教育センター 指導主事 上野 一志 様 新潟市立総合教育センター 指導主事 尾形 美穂 様
英語	主体的に学び合う生徒の育成～4技能5領域における思考力・判断力・表現力を高める指導を通して～	Zoomによるオンライン開催	新潟市教育委員会 学校支援課 指導主事 中川 久幸 様 新潟市立総合教育センター 指導主事 小林 英男 様
あすな る教育	共生と自立 ～一人一人の特性とニーズに応じた支援～	山潟中学校 寄居中学校 曾野木中学校	新潟市教育委員会 特別支援教育課 指導主事 諸本 健 様 新潟市立山潟中学校 校長 貝塚 敦 様 新潟市立白南中学校 校長 和泉 哲章 様
養護	自分の健康を考え、よりよい生活を実践できる生徒の育成 ～「対話的な学び」を通して～	早通中・東石山中 山潟中・金津中 坂井輪中・巻西中	新潟市立濁川中学校 校長 武田 統理 様 新潟市立白井中学校 校長 平山 智康 様
学校 事務	事務機能を強化し組織的な学校経営を支援する	各班の分散開催	新潟市立寄居中学校 校長 阿部 雄生 様 新潟市立東新潟学校 校長 渡邊 昌彦 様

②二部（領域）発表会（10 領域 少なくとも2年に1回は発表会を実施する。）

部 会	研 究 主 題	会 場	指 導 者
道 徳 11 月 24 日 県中教研	豊かなかかわりを通して、よりよく生きようとする生徒の育成 ～対話を通して多面的・多角的に考えながら、最理解・納得解へ向かう展開の工夫～	白新中学校	新潟青陵大学 福祉心理学部 教授 中野 啓明 様
総合学習 11 月 25 日	生きる力の育成を目指し、問題の解決や探究活動に、 主体的、創造的、協働的に取り組ませる活動の工夫	三条市立本成寺中学校 (Zoom 開催) 白新中学校	長岡震災アーカイブセンターきおくみらい 赤塚 雅之 様 三条市教育委員会 指導主事 荒川 高明 様
生徒活動 12 月 26 日	自発的、自治的な生徒会活動の展開	亀田中学校 (開催中止)	新潟市立木戸中学校 校長 中野 民生 様 新潟市立大形中学校 校長 永井 一哉 様
学級経営 11 月 24 日 県中教研	よりよい人間関係を育む学年・学級経営の工夫 ～他との関わりを必要とする活動を中心として～	宮浦中学校	新潟市教育委員会 学校支援課 課長補佐 三條 貴之 様
進路指導 11 月 15 日	将来の生き方を考え、主体的に進路を選択できる生徒を育てる指導 ～キャリア教育の実践や啓発的な体験活動の充実を通して～	上山中学校	新潟市教育委員会 学校支援課 指導主事 土田 知之 様 新潟市立月潟中学校 校長 小竹 智 様 新潟市立五十嵐中学校校長 齋藤 伸 様
生徒指導 9 月 30 日	子ども一人一人の成長を促すための生徒指導 ～自律性、社会性を育成するための取組～	江南区文化会館	新潟大学 人文社会科学系教授 神村 栄一 様
図書館	時代に即した図書館機能の在り方	実践概要集作成 12/24 締切	新潟市立白根第一中学校 校長 熊谷 勝利 様 新潟市立高志中等学校 校長 上野 昌弘 様
情報教育 8 月 2 日	情報機器を活用した支援あり方 ～タブレット端末等を学び合いの学習ツールとして～	新潟市立総合 教育センター	新潟市教育委員会 学校支援課 指導主事 片山 敏郎 様
学校保健	生徒の健やかな心身の育成を目指す チーム学校の推進	実践概要集作成 11/24 締切	新潟市立金津中学校 校長 渡邊貴俊 様 新潟市立白根北中学校 校長 緒方 猛 様
教育課程 12 月 8 日	学校課題を解決する全員参加による教育課程編成・実施 ～「新潟市の学校教育」を見据えた、チーム学校づくり～	藤見中学校	新潟市教育委員会 学校支援課 総括指導主事 内藤 浩悟 様

#### 4 成果と課題、次年度の取組（方向性）

##### <成果>

各部において、新潟市の令和4年度学校園教育の重点をもとにして「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改革」や「探究的な学習の充実」に取り組んできた。また、県中教研の指定研究が「深い学びにいたる授業～学び合う授業を通して～」と「教師の学び合い」のモデルとなり、研究校を中心に研修に取り組んできた。その成果として、教師の研修意欲の高揚と資質・能力の向上となり生徒の深い学びの推進につながっている。

コロナ禍ではあったが各部が感染予防対策を徹底し、幹事会で検討を重ね工夫を凝らし研修を推進した。多くの部会が参集型の一斉研修やリモートでのオンラインを兼ね備えたハイブリッド型開催を実現した。オンラインを活用しての検討会は、移動時間の削減となり協議に十分な時間をかけ指導案検討を実施できた。今後も部会や幹事会は研修と同じく参集とオンラインを活用しハイブリッドで展開する。

##### <課題>

リモートでのオンラインを併用する研修が同日に複数あり、新潟地区が契約している回線数では対応ができなかった。そのため県中教研より回線を借用し研修を計画通りに実施した。オンライン配信では固定カメラのため授業状況や生徒個々の詳細な様子を把握困難であるため、オンライン配信のスキル向上に向けた研修も必要である。参加人数の制限等の課題も明らかになり、来年度以降もリモートでの研修を必要となる場面もあるので、新潟市教育委員会との連携協議を図りGIGAスクール環境を整える。

例年通り、木曜日開催にて実施している。一斉研修前などに幹事会・準備会が集中しないように今後も見通しをもった運営に努め、調整を図っていく。

##### <次年度の取組（方向性）>

上記の成果と課題を踏まえ、県事務局と地区事務局との連携を強化し研修を組織で運営する。部長会や各部の幹事会はオンラインを有効活用し様々な工夫を行い実施する。また、持続可能な社会の創り手として社会の形成に参画していくために必要な資質・能力を身に付けることができるよう、GIGAスクール環境を活かし1人1台端末を活用した授業を展開する。そして各校、各部が常に新しい授業へと改善に努めなければならない。そのためには、新潟市の方針を確実に理解し、県中教研の研究主題に沿った研究を進めていくことが肝要となる。

次年度も教師も子どもと共に学び合う姿勢を通して、子どもたちが予測困難な未来社会を切り拓き、持続可能な社会の創り手として社会の形成に参画していくために必要な資質・能力を身に付けることができるよう研修を推進していく。

下越地区中学校教育研究会 会長 渡邊 誠  
(五泉市立村松桜中学校長)

1 地区中教研の活動

- (1) 第1回下越地区中教研郡市会長会 7月14日(木) 会場：各学校(オンライン会議)
- ① 令和4年度下越地区中教研の組織の確認(正副会長、事務局等)
  - ② 令和4年度事業計画、指定研究発表会の期日及び運営等の確認
  - ③ 指定研究発表会の割り振り等の確認
  - ④ 下越中教研申し合わせ事項の検討・確認
- (2) 第2回下越地区中教研郡市会長会 12月14日(水) 会場：各学校(オンライン会議)
- ① 令和4年度事業、指定研究発表会の運営等の振り返り
  - ② 令和5年度指定研究発表会の開催日・会場校・研究推進責任者・会場校責任者の確認
  - ③ 令和5・6年度の指定研究について
  - ④ 下越地区中教研申し合わせ事項の検討・確認及び次年度郡市会長会の期日確認等
- (3) 下越地区指定研究運営推進委員会 12月14日(水) 会場：各学校(オンライン会議)
- 参加者：県中教研各郡市会長(5名)
- 令和3年度・4年度指定研究 研究推進責任者(5名)
  - 令和4年度・5年度指定研究 研究推進責任者(5名)、会場校責任者(5名)
- ① 令和3-4年度指定研究(2年次)の実践報告と成果発表(全体)
  - ② 令和5年度取組の方向性の検討(グループ別)

2 県中教研指定研究等事業による研究会

教科領域	研究主題	期日	会場校・参加数 (会場校職員除く、リモ参加含む)
国語	自分の考えを深め表現できる生徒の育成 ～言葉による見方・考え方を働かせる学び合いの工夫～	11月1日(火)	阿賀野市立京ヶ瀬中学校(30人)
数学	数学的な見方・考え方を働かせた、 深い学びのある授業の実現	11月18日(金)	新発田市立豊浦中学校(34人)
道徳	互いに認め合い、他を尊重する心の育成 ～豊かな心を育む道徳教育を通して～	10月26日(水)	五泉市立川東中学校(31人)
美術	主体的に美術と関わり、美術作品の自分なりの見方や考え方を深める指導の工夫～対話型鑑賞の実践を通して～	11月11日(金)	村上市立村上東中学校(25人)
総合	探究的な見方・考え方を働かせ、地域の課題の解決を目指す総合的な学習	11月8日(火)	佐渡市立金井中学校(25人)

### 3 下越地区中教研の成果と課題、次年度の取組（方向性）

教科領域	主な成果〔研〕:研究面、〔運〕:運営面	主な課題〔研〕:研究面、〔運〕:運営面
国 語	<p>〔研〕生徒は、寂しいという感情を色のイメージと関連付けて、表現を模索していた。</p> <p>〔研〕「句」から「表現」に絞らせることで、より一語一語のイメージや意味について考えることができていた。</p> <p>お互いの考えを可視化したことで、自分の気づけなかった考えにも触れることができた。その結果、友達の考えに共感したり考えを深めたりする場面が見られた。</p> <p>〔運〕参観、リモート配信、ビデオ録画など、多様な手段で授業公開ができるように準備を進めることができた。集音については、教師にワイヤレスピンマイクを装着することで改善できた。</p>	<p>〔研〕フィッシュボーン等の思考ツールでは、生徒の多様な考えを集めるだけにとどめた方がよかった（班で一つにする意味は薄い）。その後に、生徒の言葉で情景描写や行動描写の効果をまとめさせるとよい。</p> <p>〔運〕リモート配信だと、大型モニターが光を反射して見えない部分がある。画面共有の端末も必要。</p>
数 学	<p>〔研〕条件変更をすることで、生徒ができたことの一部を変える→できそう→やってみようという主体的な学びにつながっていた。</p> <p>〔研〕ICTの活用やアイテムカードを使用するという蓄積によって、星形の問題を見たときに「既習事項を活かしてみよう」という姿になっていた。</p> <p>〔運〕他領域の中教研の資料や進め方を参考に研究会の準備を進めることができて大変助かった。今後も資料や運営方法を引き継いで使えるところは活用できるとよい。</p>	<p>〔研〕すべての単元で条件変更を使って構成できるかを考察する。</p> <p>〔研〕他の生徒の考えに触れた後の生徒の学びを確認する方法は振り返りを活用することが適切であるかどうかを検討する。</p> <p>〔運〕オンラインと併用で研究会を行う予定だったが取りやめた。運営に余裕ができた一方で、市外の人の参加が少なかった。下越に佐渡や粟島も含まれることを考えると今後検討が必要である。</p>
道 徳	<p>〔研〕実践を重ねる中で、中心発問の吟味とICT等の効果的活用により、生徒の変容がみてとれた。</p> <p>〔運〕今年度は授業を見たり、各校で指導案を作成したりして、一緒に研究を進めてきた。授業について話をする時間はとても有意義であった。</p>	<p>〔研〕終末場面で自分の生き方について考えを深められる中心課題を精査することが大切である。</p> <p>〔運〕研修会の日程調整が難しく、全員で集まることが難しかった。</p>
美 術	<p>〔研〕対話型鑑賞という手法で作品鑑賞をすることについて、生徒アンケートからまずは鑑賞を楽しみたいと感じ、鑑賞への抵抗がなくなったと回答する生徒が多数いた。</p> <p>〔研〕他者の見方を知ることで多面的・多角的に作品を捉える目を養うことができた。さらに活動を通して他者受容、自己受容ができ、自己有用感が得られた。</p> <p>〔運〕研究会当日の授業クラスや学年で何度もプレ授業を実践したことで生徒理解と教材研究が進み、部員一人一人が授業を自分事として考えることができた。</p>	<p>〔研〕見方や感じ方を「深める」ことにおいて、自分の考えと他者の考えをもっと批評し合って、最終的に自分の考えに自信をもったり、見直したりするところまでもっていく。</p> <p>〔研〕1時間という制約の中でそこまではできなかったが、今後この活動を繰り返していく中で生徒がスムーズに話し合い、美意識を高め、見方や感じ方を深めていくことを目指したい。</p> <p>〔運〕集計を考慮しQRコードによるアンケートを実施したが、回収率が低かった。</p>
総 合	<p>〔研〕生徒自らの学びが深まったり、地域課題に真摯に向き合おうとしたりする感想が数多く見られ、大きな成果を確かめることができた。</p> <p>〔研〕「佐渡に多くの魅力があると感じることができましたか?」「佐渡の魅力を知ってもらいたいという気持ちが高まりましたか?」「動画制作の過程で互いに意見を出し合うことができましたか?」の3項目が肯定的な意識になった。</p> <p>〔運〕昨年度の中間発表会や今年度の教育研究発表会で学び合う生徒の姿を参観することを通して協議内容を深めることができた。</p>	<p>〔運〕島内で普段行っている研修会よりも早めの時間設定であり、島内の遠方からの参加者にとっては所属校での給食が食べられないことになり、負担を掛けてしまうこととなった。</p> <p>〔運〕新しく開発した指導計画は試行錯誤することも多く、授業の準備にも非常に多くの時間を割く必要が生じ、当該学年の職員やキャップとなる教員の負担は多大なものとなった。このように、学校独自の特色を生かす傾向の強い総合学習の特殊性から本研究は授業公開校が中心となって進めたため、佐渡市内の総合学習部員の協議会を設ける機会が少なかった。</p>

#### <成果>

- ・ 新型コロナウイルス禍において不安な状態でスタートしたが、各教科領域で工夫して連携を図り、実際に参集する指定研究発表会を基本とし、実施することができた。
- ・ 準備段階から、さまざまな場面でリモート会議を開き、協議会・検討会を実施し、内容の濃い研究会につながった。

#### <課題>

- ・ 季節的なことや遠方の先生方もいらっしやるため指定研究運営推進委員会をオンラインで行ったが、引継ぎ事項や継続事項など具体的な資料を明確にして行う必要がある。
- ・ 佐渡の研究発表会において、島外の参加が少ないため、第2回郡市会長会で旅費の課題や参集の申し合わせを打ち合わせた。

#### <次年度の取組>（方向性）

- ・ 準備や事前会議等でオンラインを有効活用していきながら、基本的には参集型の研究会を推進していく。

## 確かな学力、豊かな心、健やかな体をはぐくむ生徒の育成

新発田市中学校教育研究会 会長 本間 道夫  
 副会長 森谷 優子  
 副会長 伊藤 真哉

### 1 今年度の課題と取組

- (1) 学力向上を図るために、各教科で基礎・基本を踏まえた指導法改善の具体的な手立てを探る。
- (2) 新発田市の目指す教育の実現のために、教科、領域をはじめとする学校教育全体の改善に向けて研修を進める。
- (3) 県中教研の示す「授業スタンダード10」や「学び合い10」等を活用して研究会、研修会を進める。
- (4) 管理職は、今年度も引き続き積極的に部会に参加する。

### 2 研究活動の概要

- (1) 第1回一斉部会 : 4月12日(火) 会場 … 猿橋中学校  
 内容 … 各部の主な事業計画案作成  
 ・各部の部長・副部長の決定、研究主題の決定、主な事業計画案作成。
- (2) 第2回一斉部会 : 11月4日(金) 会場 … 各学校  
 内容 … 研究主題に基づいた事業の実施
- (3) 各部の研究主題及び主な活動

研究部	研究主題	月日	会場	主な研修内容
国語	確かな読みの力を身につける生徒の育成	11.4	七葉中	○公開授業(1年:古典に学ぶ) ○協議会
社会	社会との関わりを意識して課題を追究・解決する生徒の育成	11.4	佐々木中	○公開授業(1年:世界の諸地域) ○協議会
数学	数学的な見方・考え方を働かせた深い学びのある授業の実現	11.18	豊浦中	○公開授業(2年:図形の性質の調べ方) ○協議会
理科	他者とのかかわりや問題解決的な活動を通して、科学的な見方、考え方を育てる授業の在り方	11.4	紫雲寺中	○公開授業(1年:身のまわりの現象) ○協議会
音楽	他者との関わり合いを通して、豊かな表現力を高める指導の工夫	10.17	第一中	○公開授業(講師による合唱指導参観) (講師 高橋 淳 様)
美術	人とのかかわりを通して、考えを深めさせる指導の工夫	11.4	本丸中	○公開授業(1年:ドリッピング) ○協議会・実践報告会
保健 体育	「主体的・対話的で深い学び」を実現する生徒の育成～深い学びの追究～	11.4	第一中	○公開授業(1年:マット運動) ○協議会
技術	学び合う活動を通して、生活実践力を高める授業の工夫	11.4	加治川中	○教材研修 (講師:久富電機産業株式会社 社長 小林 俊夫 様 株式会社サトウ教材 山口 智之 様)
家庭	学び合う活動を通して、生活実践力を高める授業の工夫	11.15	猿橋中	○授業検討会(1年:衣服の手入れ)

英語	自分の考えや気持ちを整理し、話すことができる生徒の育成	11. 4	東中	○公開授業（3年：Lesson5 I have a dream） ○協議会
道徳	考え議論する道徳を目指して	11. 11	本丸中	○情報交換 ○「道徳教育」に関する講義 (指導者 豊浦中学校 教頭 山本 亘 様)
特別活動	集団の中で人間関係を自主的・実践的により良いものへと形成しようとする態度の育成	12. 4	加治川中	○生徒会「いじめ見逃しゼロスクール」への参加
生徒指導	いじめや不登校に対応する生徒指導の在り方	10. 13	竹俣特支学校	○実践報告 ○情報交換
進路指導	体験的な活動を通して、自分自身や地域の特色を理解し、将来の生き方を見つめる生徒の育成	10. 25	胎内市立 築地中	○二市・北蒲での進路情報交換会
総合学習	地域と学び、社会と関わり、自立する力を育む指導	10. 13	猿橋中	○公開授業 「しばたの大人と未来を語る会」
特別支援教育	個の特性を生かした進路の実現に向けて	10. 25	本丸中	○講演「県立新発田竹俣特別支援学校の概要と進路」 (講師：新発田竹俣特別支援学校 特別支援教育コーディネーター 石栗 麻紀 様 進路指導主事 嘉納 雅俊 様)
養護	現代的健康課題を抱える生徒への支援と養護教諭の役割	8. 24 11. 2	七葉中 豊浦庁舎	○講義「健康相談における養護教諭の役割」 (指導者：下越教育事務所 指導主事 中山 小百合 様) ○講義「今だからこそつきたい力 困難を乗り越える方法を子どもたちに」 (講師：スクールカウンセラー 坂井 淳子 様)
事務	学校事務の質の向上、及び学校事務職員の資質向上のための研修	11. 11	生涯学習センター	○講義「G o o g l e フォームを使ったアンケートの作成」 (講師：新潟ライズ株式会社 本望 綾子 様 MORROWORKS代表 茂呂 良彦 様)

(4) 研究成果の刊行 「新発田市中学校教育研究会 研究紀要」 A 4 判

#### 4 成果と課題、次年度の取組（方向性）

##### <成果>

教科の研修では、生徒同士の関わりや学び合いを積極的に取り入れた授業を実践することができた。授業実践後の協議会も充実し、研修主題に迫ることができた。また、一斉研修日だけでなく、教科部独自の研修を実施し研修を深めることができた。

領域の研修では、今まで行ってきた各校の実践に基づいた情報交換だけでなく、講演会等を行うことで部員の専門性を高めることができた。

##### <課題>

今後も会員がより研修を深めることができるよう研究授業の視点を明確にし、協議会の持ち方を工夫していく。

小中連携を推進し、9年間の見通しをもった研修を構築していく。

##### <次年度の取組（方向性）>

今年度の方向性を継続しながら、実践を通して部員の授業力の向上につなげていく。

研究の有効性について深く検証し、研修主題についての知見を得る。

学び合いや他の人との関わる活動を通して、一層考えを深めることをテーマに授業実践に基づく研修を進める。



## 見方・考え方に着目した「深い学びにいたる授業」の創造

村上市岩船郡中学校教育研究会 会長 今井 学  
副会長 近 貴志

### 1 今年度の課題と取組

#### <今年度の課題>

当地区の課題は、「学力の向上」である。各種学力調査の全体的な傾向としては、徐々に成果が現れてきたものの、年度による結果の変動、学校間格差の顕在化、さらに近年では低下傾向が表面化してきた。「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、確かな学力を生徒に育成することが急務である。

また、少子化から学校規模が縮小し、各校で教科担当者が1名しかいないという現状もある。加えて若手教員が増えており、その育成を図る必要がある。この状況下、郡市中教研として年1回の授業研究で専門性を高め、授業力を向上することができるのか、ということが大きな課題である。

#### <取組>

「見方・考え方」に着目し、県中教研「深い学びにいたる授業～学び合う授業を通して～」を基盤に、今年度は「生徒の主体性を育み、見方・考え方に着目した授業の創造」を研究主題に据えた。

各部では、研究の視点を参考に、以下の重点を定め、必要に応じてICTの活用を図りながら「深い学びにいたる授業」に向けて研究を推進することとした。

- A 生徒の学ぶ意欲を高め、主体的に学びに向かう課題設定の在り方
- B 教科固有の見方・考え方を明らかにし、それらを働かせて解決に向かう場の設定
- C 状況に配慮した「学び合いの工夫」や「意図が明確な学び合う授業」
- D 生徒の学びの過程を大切にすためや学びの自覚ができる振り返り

前述した教師の授業力向上を図るため、今年度は以下の取組も行った。

- 国、社、数、理、英の5教科部会は、授業公開を主とした研修会を3回以上、音、美、保体、技・家、道徳は、1回以上計画し、実践を積み重ねる。
- 教科外部会については事業内容を見直す。特に、他の関係団体・組織と重複する部会や代替可能な活動がある部会は、事業内容を削減する。

### 2 研究活動の概要

- (1) 教科一斉部会 5月6日(金)会場は原則として各顧問の所属校での分散開催。
- (2) 教科外一斉部会 4月下旬～5月末までの期間で、必要な部会のみ参集またはオンラインで実施。
- (3) 教科部会研修会及び教科外部会研修会 6月～12月末までの期間で、部会ごとに分散開催。
- (4) 県中教研指定研究2年目(下越地区・美術)

- ① 授業者 村上市立村上東中学校 教諭 杉崎 浩子
- ② 指導者 下越教育事務所学校支援第2課 指導主事 磯部 睦 様  
胎内市立中条中学校 校長 丹後 直子 様

#### ③ 成果と課題

##### ア 研究の成果

- ・対話型鑑賞を用いたことで、生徒アンケートには「鑑賞を楽しみ感じた」、「鑑賞への抵抗がなくなった」と回答する生徒が多数いた。
- ・「絵の見方」のポイントを抑え、実物大・手元の複製作品を提示したこと、多様な意見を出しやすく共有するための学習形態の工夫により、生徒が主体的に級友と関わって活動できた。
- ・ファシリテーションにより、他者の意見を聞くこと、自分の意見を伝えることの重要性に気づけた。他者の見方を知ることによって多面的・多角的に作品を捉える目を養うことができた。

#### イ 今後の課題

- ・見方や感じ方を「深める」ために、自分の考えと他者の考えをもっと批評し合って、自分の考えに自信をもったり、見直したりするところまでもっていく必要がある。今後、積み重ねることで、生徒はより美意識を高め、見方や感じ方を深めていくことができると思う。

#### (5) 県中教研指定研究1年目（下越地区・英語）

- ① 授業者 関川村立関川中学校 教諭 曾川 信行
- ② 指導者 新潟県立教育センター 指導主事 下村 恵美 様
- ③ 成果と課題

##### ア 研究の成果

- ・英語学習者の特性を分析し、各校で補充すべきポイントを明確にしなが工夫して指導にあたり、その結果を情報共有できた。
- ・指導案を練り上げて授業研究を4回実施し、指導方法とその効果を確認することができた。

#### イ 今後の課題

- ・来年度に向け、関係機関とも連携しながら、今年度の成果と課題をもとに授業改善に努め、深い学びにいたる授業を構築する。

#### (6) 教科部会研修会

- ・教科部会については年度当初の計画にしたがって、国、社、数、理、英の5教科部会は、授業公開を主とした研修会をおおよそ3回以上、音、美、保体、技・家、道徳は1回以上の授業研究を実施した。（教科によっては感染症の影響で実施できなかった教科があった。）

#### (7) 研修のまとめ 県学校支援システムのコミュニティ「村上市岩船郡中学校教育研究会」に集約。

### 3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

#### <成果>

下記については概ね、成果が見られた。（教科によって若干、差がある）

- 教科部会の一人一人が、意欲的に研修に臨んだ姿が見られた。
- 授業研究をとおして、教員の授業力を向上させようとする意欲につながった。
- 授業研究をもとにした研修は、教員の授業力向上につながった。

#### <課題>

前述した1（取組）であげた「研究の重点」を意図して研究を進めた。Cの「学び合いの工夫」については、概ね成果が見られた。しかし、A「課題設定のあり方」、B「見方・考え方を働かせて解決に向かう場の設定」、D「学びの自覚ができる振り返り」については改善の余地がある。

#### <次年度の取組（方向性）>

「深い学びにいたる 学び合う授業」を目指しながら、先にあげた課題を解決するために、研究主題、研究の重点について再度、検討する。

次年度は、今年度同様に、技能教科は年1回以上の授業研究とする。5教科については、年3回の授業研究に負担を感じている教科がある。このことを受け、来年度は3回の授業研究か、授業研究2回+理論研究1回のいずれかを教科部で選択することとする。また指導者は、できるだけ外部の指導者を招聘するようになりたいと考えている。

次年度は県指定研究で英語が本発表（関川中学校）、道徳科が県指定研究1年目である。確実な成果があがるように準備を進めていく。

資質・能力を育む「深い学びにいたる学び合う授業」の創造  
ー学び合い、ICTの活用を通してー

五泉市東蒲原郡中学校教育研究会 会長 渡邊 誠  
〃 副会長 石塚 間継  
〃 副会長 佐藤 昌樹

## 1 今年度の課題と取組

### <今年度の課題>

ねらいを達成する学び合いやICTの利用が図られるよう、単元や授業における位置付けを検討し、より効果的な学び合いを模索したい。

- ①生徒の実態に合う単元を貫く課題の開発は、生徒の主体的な学びを促す。課題を解決するために計画的に学習を配置していくことが肝要である。課題の内容とその配列についてよく吟味する。
- ②授業の中の生徒の交流場面では、交流の目的、比較・検討させる教材の吟味、思考ツールの効果的活用など、目的に合わせた活動を計画していく必要がある。
- ③知識を定着させる活動を単元の中で意識することで、知識や技能を活用した場面を効果的につくることができる。生徒の実態に合わせた単元計画が必要である。
- ④ワークシートを作成することで、学習の視点をしぼることにつながるが、反面思考を狭めてしまう結果になりかねない。

<取組> 以上のような課題を受け、本年度は以下に力点をおいて推進してきた。

- ① 深い学びにいたる授業をするための学び合いの在り方、ICTの活用方法
- ② 生徒が目標に向かって試行錯誤しながら学びを深められるような課題設定（単元、括り時間、1時間）

## 2 研究活動の概要

### (1) 県中教研指定研究（下越地区・道徳 2年次）

- ① 授業者 五泉市立川東中学校 教諭 高野由起子
- ② 指導者 下越教育事務所 指導主事 田中 一史 様
- ③ 成果と課題 ※中心発問、ICTの活用等、生徒の変容を中心に成果と課題を振り返った。

#### ア 研究の成果

- (ア) 授業者が「何を考えさせたいか」「最終的にどんなことを書いてほしいか」を考えて発問の文言を決める。初発の自分の考えを明確にし、班や全体での対話を通して学びを深める。
- (イ) ① ホワイトボード…議論を生む、可視化する、意見の相違に気付くことに有効である。問い返しが生まれる。生徒の役割を決め、毎時積み重ねることが大切である。
- ② ロイロノート…他との考えの比較で色分けで意思表示させることが容易で早い。
- ③ モニター…書く・消す手間と時間が要らない。文字を残したい場合は黒板を使う。

#### (ウ) 【生徒の変容】

発表会当日だけではなく、研究主題である「互いを認め合い、他を尊重する心の育成」を意識しながら、日々培っているものの積み上げられた姿が、公開された2年間のすべての授業で見られた。どの授業でもたくさん話し、自分たちで問い返し、終末ではじっくり書いていた。

#### イ 今後の課題

- (ア) 終末場面で自分の生き方の考えが深まる中心課題を精査することが大切である。
- (イ) それぞれの特性を生かして、より効果的に使い分けることが大切である。
- (ウ) 生徒の考えを深めるためにテーマ発問と場面発問の間をねらって補助発問を行う。効果的な補助発問を連続させることで、生徒の思考を深く導くことができる。

#### (2) 県中教研指定研究（下越地区・理科 1年次）

- ① 授業者 五泉市立五泉中学校 教諭 石川 公康
- ② 指導者 下越教育事務所 指導主事 渡邊 幸太 様
- ③ 成果と課題

#### ア 研究の成果

- (ア) 単元終末課題に向けて単元を組み立てることで、課題解決に必要な知識などを計画時に明らかにできた。
- (イ) 現象のしくみを繰り返し意識させることができた。

#### イ 今後の課題

- (ア) 生徒の仮説に裏付けとなる明確な理由がなかった。
- (イ) 目指す生徒の姿が明確になっていなく、補助発問が曖昧になってしまった。
- (ウ) 生徒自ら課題を見出すことができなかった。

#### (3) 一斉研修の概要

- ① 国語（村松桜中） 指導者 五泉市教育委員会 指導主事 浅間 一城 様
- ② 社会（三川中） 指導者 阿賀町教育委員会 管理指導主事 小樋山寿幸 様
- ③ 英語（阿賀津川中） 指導者 下越教育事務所英語学力向上専門監 片桐 環 様
- ④ 数学（五泉北中） 指導者 五泉市教育委員会 指導主事 佐藤 和幸 様

#### (4) 研究成果物の刊行

五泉市・東蒲原郡中学校教育研究会 研究紀要第14集

### 3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

#### <成 果>

- 各教科で、「実社会と関連のある課題」、「切実感のある課題」などをもとに単元を貫く課題の設定をすることができた。それが生徒の主体的な学ぶ姿や考えを共有する姿につながった。
- 深い学びに至るための授業を実現するために、学び方やICTの活用、ルーブリック等の活用、問いの質の追究等々、各教科の部員が知恵を出し合って研究を進めたことで、授業改善につながった。
- 指導者より新学習指導要領についての改訂のポイントを聞いたり、教師自身の日ごろの工夫や悩みを意見交換したりする時間を設けることで、授業改善のヒントを得ることができた。

#### <課 題>

- 「単元を貫く課題」の設定はできたが、それを授業におとし込むための工夫が足りていない。
- 「中心発問」を活かし、深い学びに導く「発問」等のしかけをより検討していく必要がある。

#### <次年度の取組（方向性）>

- 「単元を貫く課題」が円滑に進められるように、区切りとなる課題の設定を工夫する。
- 「中心発問」を活かし、深い学びに導く「発問」の工夫、生徒の考えを繋げるための工夫等、授業の細部における教師の役割をより明確にしていく。

佐渡市中学校教育研究会 研究活動の概要

「未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を備え、社会において  
 自立的に生きる生徒を育てる中学校教育」  
 ～ 佐渡の特性を生かし「志高い生徒」をはぐくむ教育の推進 ～

佐渡市中学校教育研究会 会 長 中川 久雄  
 同 副会長 佐藤 元  
 同 副会長 本間 祐一

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

- (1) 「見方・考え方」に着目し、「深い学びにいたる」授業の推進。
- (2) 佐渡市の地域性を生かした教育実践の質的な充実。

<取 組>

- (1) ①各教科のどのような『見方・考え方』を働かせて深い学びを実現させるのかという視点から、授業改善を図っていく。
- ②ファシリテーション等の学び合いの質的改善を図りながら、「深い学びにいたる」授業を積極的に研究・実践する。
- ③教師同士の「学び合い」を促進し協議会の質を上げるために、協議題を吟味するとともに、その協議題とリンクした授業参観の視点を明確にしておく。
- ④外部講師の招聘や、県中教研指定研究会等への積極的な参加を促進し、その成果の共有を図る。
- (2) ①学校や地域の特性を生かし、様々な人々とのかかわりや協働を通して豊かな心を育む。
- ②キャリア教育の視点に立って、自立に向けた意欲ある生徒を育成する。
- ③道徳の時間における「考え議論する道徳」の一層の充実・深化を目指して研修を重ね、情報を共有する。

2 研究活動の概要

- (1) 教科・領域部会（組織編成と事業計画） 5月2日（月）佐渡市立新穂中学校  
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、今年度も、例年実施されている全体会を行わず、会長が校内放送で運営方針や研究推進の方法等について説明し、各顧問が補足する形式を取った。
- (2) 一斉研修（午前：領域部会、午後：教科部会） 8月19日（金） 一部は別日に実施  
 ※昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、リモートや書面等による研修にせざるを得なかったが、今年度は指導案検討や情報共有だけでなく、演習やICT活用研修、外部講師を招いての講演会等、研修内容に工夫を凝らした部会が数多く見られた。
- (3) 各部会の活動（全会員参加の研修）

部 会	研修テーマ	期日	会 場	授業者/指導者・講演者 〈佐渡市中教研会員の敬称は省略〉
国 語	深い学びにいたる授業 ～言葉による見方・考え方を働かせる学び合いの工夫～	12/5	南佐渡中学校	佐渡市立南佐渡中学校教諭 木村 興志 佐渡中等教育学校非常勤講師 川上 智博 様 佐渡市立南佐渡中学校校長 土屋 雅朗
社 会	社会科の見方・考え方を働かせて学び合い、深い学びにいたる社会科指導の在り方	11/22	赤泊中学校	佐渡市立赤泊中学校教諭 大矢 直輝 佐渡市立佐和田中学校校長 長尾 謙治
数 学	学ぶ意欲を高め、分かる喜びを実感できる指導の工夫 ～数学的な見方・考え方を働かせ、学び合う授業～	11/28	南佐渡中学校	佐渡市立南佐渡中学校教諭 小野 哲 佐渡市教育委員会指導主事 小田 俊裕 様 佐渡市立金井中学校校長 香遠 正浩
理 科	『見方・考え方』に着目し、『深い学びにいたる』授業改善 ～「見通し・振り返り」と「学び合い」の授業を通して～	10/28 2/1	前浜中学校 相川中学校	佐渡市立前浜中学校教諭 皆川可奈子 佐渡市立河崎小学校校長 有本 勝彦 様 佐渡市立相川中学校教諭 木村 太郎 佐渡市立高千中学校校長 上村 寿彦
音 楽	音楽のよさを感じ、伝え、かかわり合いながら考える 生徒の育成	11/25	金井中学校	佐渡市立金井中学校教諭 前山ちひろ 新潟大学名誉教授 伊野 義博 様 佐渡市立両津中学校校長 嶋見 靖之
美 術	生徒が感性や想像力を働かせて、表現する授業の工夫	11/21	高千中学校	佐渡市立高千中学校教諭 臼木 陽子 佐渡市立内海府中学校校長 荻野 秀和
保 健 体 育	できる喜びを感じさせる授業の工夫 ～目的を明確にした学び合いを通して～	10/13	相川中学校	佐渡市立相川中学校教諭 清水 丈瑠 佐渡市立畑野中学校校長 雑賀 裕
技術・ 家庭	深い学びにいたる授業 ～学び合う授業を通して～	5/23	佐和田中学校	佐渡市立佐和田中学校教諭 濱西杏香里 佐渡特別支援学校教諭 中澤 民枝 様

		6/3	新穂中学校	佐渡市立新穂中学校教諭 佐渡市立新穂中学校校長 佐渡市立高千中学校教諭	川原幾代子 岩崎 浩史 霍間 厚浩
英語	見方・考え方に着目し、深い学びにいたる授業改善 ～言語活動を通じた表現力の育成を図る実践研究～	8/4 10/3 11/18	両津中学校 両津中学校 金井中学校	新潟市総合教育センター指導主事 新潟市総合教育センター指導主事 佐渡市立金井中学校教諭 佐渡市教育委員会教育指導主事 佐渡市立相川中学校校長	小林 英男 様 小林 英男 様 宮島 淳人 村川健太郎 様 佐藤 元
道徳	「見方・考え方」に着目し、「深い学び」とは何かをイメージした道徳の授業改善	12/7	赤泊中学校	佐渡市立赤泊中学校教諭 佐渡市立赤泊中学校校長	度會 きぬ 本間 祐一
特別活動	より良い人間関係を築き、自治的能力を高める特別活動の推進	10/7	金井中学校	佐渡市立金井中学校教諭 佐渡市立真野中学校校長 佐渡市立新穂中学校教諭	宮野 春輝 中川 久雄 小黒 淳一
生徒指導	関係機関と連携したICT活用に伴う生徒指導上の諸問題の解決について	8/19	畑野中学校	佐渡市消費生活センター相談員 佐渡市立畑野中学校校長	塩見 康弘 様 雑賀 裕
進路指導	地域の特性をふまえ、志をもち、自分の進路選択に向かって努力し続ける生徒の育成	8/19	佐和田中学校	佐渡市立前浜中学校校長	伊藤 彰
総合	探究的な地域学習を通して、自己の生き方を考えさせる指導の工夫	11/8	金井中学校	佐渡市立金井中学校教諭 佐渡市立金井中学校教諭 佐渡総合教育センター所長 全 県 総 合 部 長 佐渡市立金井中学校校長	中川 一貴 前山ちひろ 加藤雄一郎 様 佐藤 靖子 様 香遠 正浩
学校保健	かかわりを通じて豊かな心を育成し、自立的に生きる生徒を育てる～ストレスマネジメントに関する保健学習を通して～	8/19	新穂中学校	佐渡市立松ヶ崎中学校校長	藤原 靖也
事務	○会員の資質・能力・意欲の向上を図り、学校経営の中核的な役割を担う。 ○学校事務の研究を深め、学校教育の充実発展に寄与する	6/16 1/27	畑野農村環境改善センター アミューズメント佐渡	佐渡市教育委員会教育総務課総務係主任 佐渡市教育委員会教育総務課総務係主事 佐渡市立南佐渡中学校校長 佐渡市立相川中学校校長	小林 唯美 様 土屋 夏葉 様 土屋 雅朗 佐藤 元

(4) 研究成果の刊行「佐渡の中学校～研究集録（令和4年度）～」 A4版 68 ページ 100 部発行

### 3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

#### <成果>

- (1) 引き続きコロナ禍ではあったが、今年度は、感染拡大防止対策に万全を尽くしながら、例年どおりの対面による研修を実施することができた。オンラインや紙面のメリットもあるが、やはり授業参観も含め、生徒の生の活動や顔を見合わせた協議会のほうが研修が深まることを実感した。
- (2) ほとんどの部会で、「深い学びにいたる」授業を意識した研修を行い、成果と課題を共有することができた。
- (3) 授業後の協議会も、「深い学びにいたる授業」であったかどうかに関心をもち、焦点を当てた話し合いを行うことができた。

#### <課題>

- (1) 「見方・考え方」を軸とした授業改善を進め、「深い学びにいたる授業」の実現を図る。
- (2) 各教科・領域のどのような「見方・考え方」を働かせ、どのような手だてで、深い学びを実現させるのか（どのような状態になれば深い学びにいたったと評価するのか）という視点から指導案を作成するとともに、事前検討会を充実させる。
- (3) 協議会の質を上げるために、協議題を吟味するとともに、その協議題とリンクした授業参観の視点を明確にしておく。

#### <次年度の取組（方向性）>

- (1) 『「見方・考え方」を働かせ、「深い学びにいたる授業」』を研究テーマとし、「見方・考え方」を軸とした授業改善に取り組む。
- (2) 県中教研指定の発表会（音楽：令和5年度、技・家：令和6年度）に向け、市中教研全体を挙げた運営・支援体制を築くことによって、その研究成果を各教科や各学校へ還元していく。
- (3) 「佐渡市教育大綱及び佐渡市教育振興基本計画」の趣旨に基づき、その目標の達成に向けて、各部会の教育活動を着実に実践していく。特にキャリア教育は、総合の県中発表会の成果や佐渡市教育委員会の協力・助言を基にさらなる充実を図り、佐渡の未来を担う人材の育成に当たる。